

育教の兒幼

號三第號月三卷八十二第



內校學範師等高子女京東
會協園稚幼本日

奈良女子高等師範
學校教諭兼訓導

橫井曹一先生著

菊判箱入
定價金壹圓八拾錢

送料拾八錢

新刊

兒童中心

手工學習指導

機械的模倣的脫
律的模倣的
做的模倣的
した模倣的
學習指導

最近、職業教育の高唱せらるゝ機運に際し、初等教育に於て最も重要な地位を占むべき手工、教育に對して本書は最も重要な使命を擔ふて居ります。即ち本書の活用によつて、兒童自來の指導者の生活から學習の題材を選擇し、表現の材料を蒐集し、形狀寸法構成を立案し、自律的に自己發見の技巧に依つて藝術的、立體的科學的製作を爲さしめ得る様に力め、手工科指導者の無二の寶典です、必携を希ひます。

東京女子美術學校教授
山本キク
先生新著

版十三

三訂新撰裁縫教授法

全一冊洋綴
插畫百餘
定價貳圓貳拾錢
送料拾八錢

透徹した理論
神に入る實際
め文檢受驗の諸姉

現在の裁縫教育界に於て技術と學理併用の歸趨を明示せるものなし。本書の右に出づるものなし。即ち斯界の權威山本先生は本書に於て最も豊富なる教壇上の蘊蓄を傾倒し、多數の插圖實例を示して體系の組織を以て學理と技術を指導する知識として眞髓を把握し傳へること信す必携を乞ふ。

文學士
青木誠四郎譯

版新

保育學校實際研究

全一冊洋綴
定價八拾錢
送料六錢
最近ニューヨークに於てその實際を實驗研究せし結果であつて幼い小供の教育にあたられる教師保母諸氏へすむ。

久保良英
青木誠四郎刊

版新

幼兒之研究

菊判洋綴
定價壹圓貳錢
送料拾八錢
低學年幼稚園の教育は教育の根本であります。本書はそれ等を知ると共に我學界の尊き研究の發見機關です。

東京音樂學校教授
中田章著

版新

マーチ・アルバム

大判全一冊
定價一圓貳錢
送料一圓八錢
英美獨佛露等各國の代表的作曲家の名曲中爽快優美にして専ら學校音樂教育本來の目的に合致する進行曲目冊曲を選定せり。

發行所 東京市牛込區 中野區 文庫館書店 電話 三三三 三八三 四三三 五三三 番七番五

桂田金造先生著

四六版三一八頁
肖像十七葉挿入

定價金壹圓七拾錢
送料金拾貳錢

趣味の偉人物語

最新刊

やさしく、美しく、うるほひあり、親しみあり、そして、力ある貴い光のやどされてゐるのが、この趣味の偉人物語であります。これは、著者の天才による獨創的の産物でもあります。少年の讀み物に對する著者の眞面目な責任感と、それにふさはしい著者の非凡な努力とが、やがてこの物語を産み出したのであります。

本書がいかにかに、吾少年少女達の心靈の上に、燦爛たる光明を投じ、イカニ彼等をして強い自奮と自治の精神を起さしめるかは、多く説かずして明かであります。

一次目

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------------|-----------------|--------------|--------------|------------|------------|----------------|-------------|---------------|-----------|---------------|-------------|------------------|---------------|-----------|---------------|-----------|---------------|---------------|
| 二十 | 十九 | 十八 | 十七 | 十六 | 十五 | 十四 | 十三 | 十二 | 十一 | 十 | 九 | 八 | 七 | 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 |
| 我獨り尊し(釋迦) | 智にも亦東より開く(孔子) | 世に出でし第一の人(クリスト) | 貧兒の成功(カネギート) | 趣味の兄弟(光琳と乾山) | 樂壇の寵兒(グノオ) | 忠烈の人(乃木希典) | 愛のために(ナイチンゲール) | 不朽の生命(ユリゴー) | 人道のために(リンカーン) | 先驅者(大隈重信) | 男兒の意氣(ガリバルデー) | 眞の英雄(ワシントン) | 深く考へ力強く行へ(トルストイ) | 自然の美を求めて(ミレー) | 發明王(エヂソン) | 學理の探究者(ダーウキン) | 奮闘兒(高峰讓吉) | 楽しい希望(フランクリン) | 樂しい希望(フランクリン) |

振替口座
四三四五
番三

文 教 書 院

株式會社

東京赤坂牛元町



育教の兒幼輯編會協園稚幼本日

會長
主幹
贊助員

東京女子高等師範學校校長
東京女子高等師範學校教授

吉岡郷甫
堀七藏

東京高師教授

巖谷秀雄

東洋大學教授

棚橋源太郎
田子一民
高島平三郎

東京帝大醫科講師

醫博

乙竹岩造

東京府女子師範學校校長
東京女子高師囑託

龍山義亮
土川五郎

東京高師教授

文博

大瀨甚太郎

帝國教育會理事

野口援太郎

慶應大學教授

醫博

唐澤光德

松江高等學校校長

乘杉嘉壽

東洋幼稚園長

文博

岸邊福雄

京都帝大教授

野上俊夫

早蕨幼稚園長

醫博

久留島武彦

東京女子高師教授

弘田惣三

東京高師教授

文博

佐々木秀一

東京帝大教授

倉橋惣三

東京女子高師教授

文博

下田次郎

東京帝大教授

松村武雄

東京女子高師教授

文博

菅原教造

奈良女子高師校長

松本亦太郎

醫、文博

富士川游

奈良女高師附屬幼稚園主事

榎山榮次

東京市教育局長

文博

藤井利譽

奈良女高師附屬幼稚園主事

三田谷啓

東京女子高師講師

文博

藤五代策

東京帝大教授

湯原元一

文部省

福士末之助

東京帝大教授

吉田熊次

文博

谷本富

東京女子大學長

安井哲子



第 三 號 幼 兒 教 育 の 第 二 十 八 卷

口 繪 雛 祭 り

幼兒の眼……………莊司秋白……二頁

幼兒の運動的遊戲に就いて……………寺谷朝藏……九頁

私の幼稚園……………水島さゆり……一八頁

幼兒の遊びを如何に整理するか……………三浦ひろ……二三頁

兒童の劇演出……………長尾豐……三一頁

良きふりかへり……………中村楠雄……三五頁

行進遊戲について……………戸倉ハル……五〇頁

童謡 蟹のお寺……………久門嘉祐……五四頁

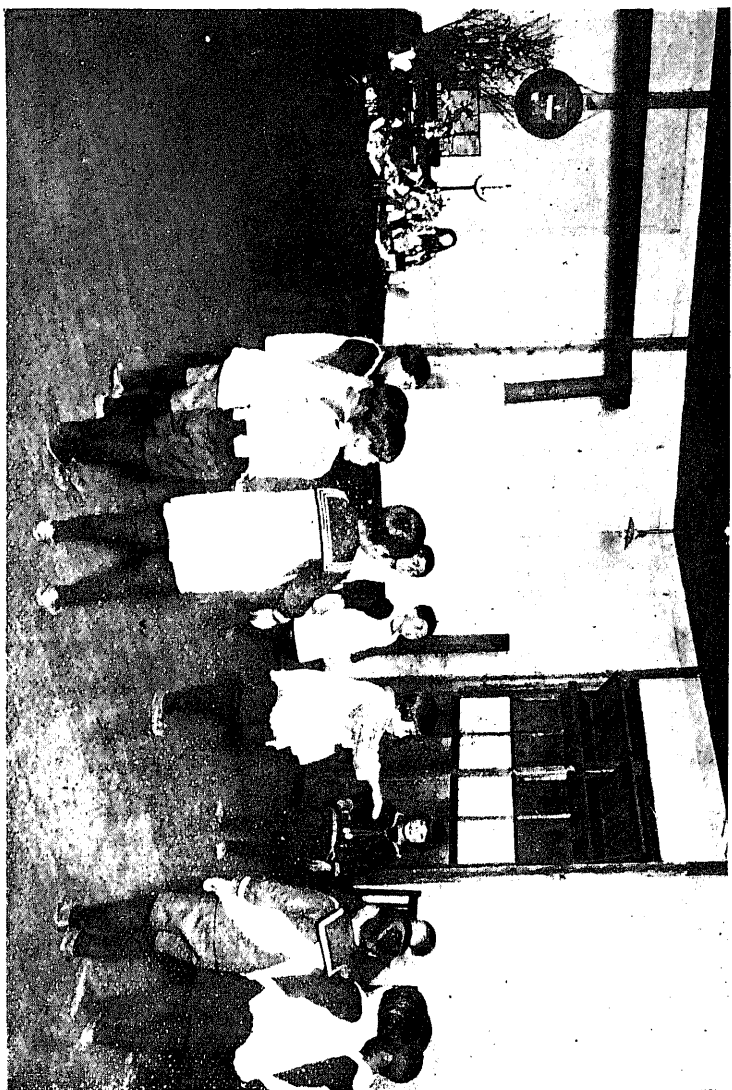
鶯と龜 ボン太郎の石ころ……………水谷年惠……五八頁

遊戲 お菓子汽車……………土川五郎……六二頁

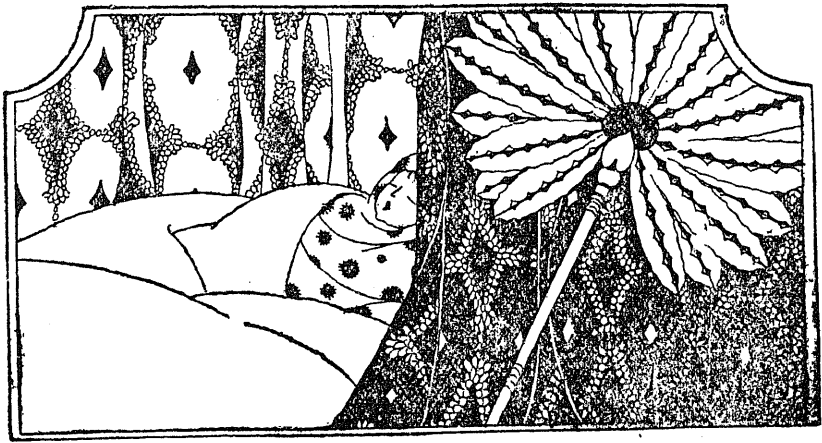
四月の幼兒生活……………ト部たみ……六四頁



圖稚幼屬附師高女京東 (一) 祭 雛



園稚幼屬附師高女京東 (二) リ 祭 雜



號三第 育教の兒幼 卷八十二第

月三年三和昭

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたものであります。

幼 児 の 眼

莊 司 秋 白

二

コロレンコの盲樂人といふ小説は、お母さんが生まれたばかりの赤ン坊の泣聲を聞いて、その赤ン坊はどうやら目が見えないのではあるまいかといふ不安に襲はれ、醫者に診察してもらつた所が、果して盲であつたと云ふのが書出してあつたやうに思ひますが、實際妊娠、分娩、産褥は生理的とは申しながら随分心配なものに相違ない。幸さ安産であつても、その生れた赤ン坊が何處ぞ不具てはないかと云ふことも必ず氣遣はれることで、一通り完全であれば、先づ／＼と安心をする。併し内臓の畸形、殊に眼の完全であるかどうかと云ふことは、十分觀察した上でなければ分かりません。一ツ目小僧とか三ツ目小僧とか云つたやうな畸形もあり、眼瞼が粘り著いてゐて眼を開かないものや、殘ど眼球の無いものなどもあります、斯様な著しい外眼の畸形は誰でも直ぐ氣がつく。併し眼は小さいのに非常に構造が複雑になつて居ります爲に、外から一寸見たゞけでは全く氣のつかない種々の畸形や病變があります。それが爲にかなり長い間盲の子を抱いて知らずに育てゝゐることが往々ございます。

斯様な事は勿論妊産婦の前で話したり聞かせたりすべき事ではない。慎まねばならぬことはありま

すが、併し平素心得てゐても然るべき事であらうと思ひます。それには眼の胎生學とか病理學とか云ふことを少しも話した上でないと説明が困難でありますが、只普通どんな異常が氣付かれずに居るかと云ふことだけを申上げて見ませう。

初生兒は通常光線が目にあたると、多少まぶしさうに、而かも極めて遲鈍に瞬をし、何處を見ると云ふこともなく、勝手に眼を動かし、眼の光澤も一體にどんよりしてゐて至て見ばその無いものであります。一ヶ月頃からは大きな物の運動に目を止めるやうになり、二三ヶ月頃になると略ぼお母さんの面を見覺え四ヶ月頃になると手を伸べて弄具を取らうと致します。多少色の見分けがつくのは三十日頃よりのことで本當に辨別し得るには二ヶ年を要します。

そして斯様な視覺發達の順序に従はず、著しく遅れる、又三ヶ月頃になつて柔かい筆の尖を以て目を突くやうな眞似をしても、目をつぶらず平氣で居るやうな時は、何ぞ腦の方に障礙があるか、眼に故障のあるものと思はなければなりません。

眼の方の故障としては、先づ小眼球と云ふて一體に眼球が普通よりも小さいのがあります。この場合には單に眼球全體が小さいばかりでなく、大抵又小角膜と云ふて黒目も小さい。のみならず瞳孔偏位と云ふて瞳孔が眞中に無かつたり、或は虹彩缺損と云ふて瞳孔のしぼりが一部分缺けたりしてゐることが多い。且つ斯様な異常のある時には屢々眼球震盪症と云ふて眼球が時計の振子のやうに或は時として上

下にことん／＼と不隨意に動くものがあります。これは稍々成長した小兒では大抵氣づかれますが、往々その異常の一部分しか氣づかれてゐない場合が尠なくない。尤も此等の畸形や異常は早くから認められても、殆ど仕方が無いやうなものではありますけれども、案外また治療的效果を獲ることもありますから、兎も角も一度は眼科醫の診察を反けるやうにせられたいものである。且つ親がこれを知つてゐると知らずに居るとでは養育上直接間接に種々の利害得失を生ずるものと思はれます。

次に幼稚園に入る位の年齢になつても氣づかれずに居る眼の異常としては、前に述べた眼球震盪症、これは決して小眼球の時のみではない、種々の病氣で起る、特に高度の遠視、又は偏眼に視力障礙のある場合に起ることが多い。而かも平素は殆ど氣がつかない、物を凝視する時とか、片眼を覆ふと初めてことん／＼と異様の運動を始めるものがある。

それから又女兒には甚だ稀であるが、男の子には色盲と云ふものが非常に多い。百人の中に三人位も色の見別のつかないものがある。殊に緑と紅とか分からないのが殆ど大部分で、全く緑と紅との分からないのと、餘り判然しないのとがありまして、稀には青も黄も分ならず萬物皆唯だ灰色に見て居るものもあります。併しこの場合には他に視力の障礙、羞明、眼球震盪などと種々の症狀が認められますが、普通の紅綠色盲は外から見ては何の異常も無いものでありまして、色盲検査をやつて初めて之を知るので、それも十歳以下の小兒に於ては餘程困難である。時間をかけて種々の試験をして漸く診斷しなけ

ればなりません。これは將來の學校及び職業選擇にも大關係あることでありますから、知つて置かなければならぬ事であります。

次には屈折機の異常、即ち近視、遠視及び亂視と云ふやうなものでありまして、これも一寸外から見ただけでは分かりません。一體小兒の眼は、極初めは皆遠視で、それから正視になり、更に近視になり或は亂視にもなるのでありますが、小學校の兒童には遠視がなかく多い、然るにこの遠視と云ふものは、高度のものは別として、普通に見る程度のもものは、兒童では眼の調節力が強い爲に、眼鏡を用ゐなくても體格検査の時に標準視力まで明かに視えますから、體格検査票には視力正と記入されますので、家庭では全く眼に異常は無いものと思つて居ります。併しこれは背の低い子供が爪立をして普通の小兒と肩を並べて居るやうなもので、尋常に見えることは見えても、眼の方で努力してゐるのであるから、遂に疲勞せざるを得ない。少し著しいものであれば、物を見る時に目を膨らす爲に力を入れるので兩眼が幾分鼻の方に寄つて軽い内斜視狀を呈し、額に皺をよせ、兎角氣づかしい。度が強ければ頭痛を訴へ、所謂神經衰弱のやうな症狀を呈し、從て學校の成績も惡くなつてまゐります。

近眼の輕いのは、それ程頭に響きません。且つ幼稚園は勿論、小學校も初級までは近眼は稀で、級の進むに従て漸く近眼が多く、その度も強くなつて來ますが、近眼の小兒は遠視とは異つて比較的輕度でも遠くが見にくいのですから、教場でも席を前に出してくれと云ひ、讀み書きするにも、その度に應じ

て眼を近づけて見ますから、大した害はありません。併し既に二十度以上の中等度の近視では、既に脊を前屈するほど面を書物に近づけますから、適當の眼鏡を與へなければなりません。

亂視と云ふのは、眼球の縦軸だけ或は横軸だけが遠視又は近視状態になつて居るのがあり、又縦も横も遠視又は近視状態であるが、縦と軸とで度が異つて居るものもあり、或は縦と横との一方が近視で一方が遠視と云ふやうに軸の交叉して居るのがあり、その交叉も必ずしも十文字に交つてゐるとは限らない。斯様に亂視は複雑したものでありまして、圓いものも卵形に見え、或は甚しく歪んで見え、單純の近視や遠視よりも餘程目が疲れるものであります。

斯様な種々の眼の屈折異常がありまして、その輕度なものは、特に小兒に於ては看過されることが多い。看過される程であるから、いづれ高度のものではないに違ひありませんけれども、これに氣づかずに放置すれば、大投その度は進んで来る、のみならず前に申上げたやうな神経症狀が起つてまゐりますから、矢張なるべく早く適當の注意をすることが必要であります。

これに就ては單に一般衛生上の注意、殊に光線や讀書の際の注意だけすれば宜しい場合もありますが、十歳以上の小學校の兒童では、どうしても眼鏡が必要になります。ところが兒童に眼鏡を用ゐさせると益々近視や遠視の度が進むと云ふ迷信が行はれて居ります。併しそれは全く迷信で、決して左様な理窟はありません。只不適當な眼鏡を與へれば、これは用ゐぬよりも悪いことがある。さう云ふ無法な眼鏡

を用ゐさせることになれば度の進むのも不思議はないわけがあります。眼鏡の選定には精細な屈折機の検査と年齢職業その他各個人の目や面の具合に依て種々の加減をしなければならぬので、餘程熟練を要するものでありまして、近眼らしいから一寸かけて見て掛けぬよりも良く見える近眼鏡ならば、それで宜しいと云ふわけにはまゐりません。實際近視眼でも遠視の眼鏡が適當場合もあり、遠眼でありながら正視或は反對に近視状態を呈して居る場合などもありますから、斯様な際に自覺的に自分で好い加減な眼鏡を求めれば必然反對の眼鏡を買ふこととなり、近視は愈々近視を強くし、遠視は益々遠視の度を加へて眼鏡を用ゐぬよりも目を苦しめる事になるのであります。僥倖にして近視の人が近眼鏡を求め、遠視の人が遠視の眼鏡を求めまして、太抵、近視眼は強過ぎ、遠視眼は弱過ぎる眼鏡を選んで居るのが常である、況や亂視に至ては到底自分で適切な眼鏡を選び得る筈のものではありません。それで眼鏡は必ず専門醫の處方に俟たなければならぬ。特に小兒の眼鏡に至ては、第一眼鏡を要すや否やからして醫師の診斷に依らなければならぬのであります。

除り長くなるから、この位で御免を蒙ひつて置きますが、最後にもう一つ附加へて申上げて置きたいのは、幼稚園や小學校の生徒に屢々見受ける眼瞼縁炎の事であります。これは睫毛の生際の處が爛れる病氣でありまして、極輕いのは、只睫毛の根の處に糠の様なものが附著してゐるを認めるに過ぎませんけれども、稍々著しいものは、眼瞼の縁が赤くなり、睫毛の根本に潰瘍が出來て睫毛が抜け落ちます。

これは治療すれば割合によく癒るものですが、兎角氣がつかず、或は放置してあるので、その結果睫毛が幾重にも而かも亂雑に生えたり、甚しいのは睫毛が抜けて、その後には力の無い細い短かい毛や、反對に太い剛い毛が行儀悪く生えたり、更に甚しいのは全く睫毛が無くなつたり致します。斯様な結果になりますと殆ど手がつけられませんか。男の子はまだしもですが、可愛らしいあたら美人の卵が幼時の僅かな不注意の爲に生涯變な容貌の婦人となりはてるのは甚だ遺憾な氣の毒な事であります。御注意を願ひます。

新入學兒童の豫備身體検査注意書

東京市教育局に於ては、今春四月の就學兒童に對する豫備身體検査の後、疾病異常あるものに對し入學以前適當の治療をなさしむる目的を以て、左記注意書を出されました。

本日の検査で病氣のあつた方は四月の入學時迄に全治せしむる様に努めて下さい。特にトラホーム、ロホー性結膜炎、疹癬、白癬、頭虱其他傳染性の眼病や皮膚病は直に醫療を受けて治さないと、治る迄入學をお断りする事があるかも知れません。尙中耳炎（耳漏） 叮嚀栓塞、アデノイド腺様増殖症、高度の扁桃腺肥大、濕疹等は勉強に妨げがあるから醫師と相談の上適當の手當を施して下さい。

就學に堪え得ない様な疾病異常のある方や、發育の遅れてゐる方などは検査醫と御相談の上就學猶豫又は免除の手續を取つて下さい。

小學校は多數兒童の集まる所ですから色々な病氣を傳染せしむる場合があります。



幼兒の運動的遊戲に就いて

東京女高師附屬小學校 寺谷朝藏

近來都會地に於ては、幼稚園に行かないで小學校に入學する兒童が殆んど一人もない位になりました。それは丁度小學校を終へないで中等學校に行く兒童が一人もなくなつたかの如き盛況であります。中等學校の成績が小學の成績を基礎にして行はなければならぬと云ふことを肯定するならば、入學前の生活、成績即ち幼稚園の教育を無視して小學校の教育が健全なる發達を遂げ様筈はありません。吾々初等教育者は過去に於て（否現在に於ても）中等教育が餘りに小學教育を無視してゐる點を難じこれを慨歎した、即ち中等教育は餘りにも主智的であり注入的であると、併しその言葉は應て幼稚園教育者より吾々に贈られんとしてゐるではありませんまいか。それ程最近都會地の幼兒教育は進んで來たてはありますまいか。

故に吾々幼稚園に對しては全々白紙の者でも、やがてこの學舎の卒業者を迎へて教育すべき責任上その希望なり、方法上の問題を述べても必ずしも徒爾でないと思ふのであります。勿論經驗も何もありません。その希望なり考へが正しいか否かは直ちに斷言出來ませんが妥當であれば幸ひです。

二

人性の發展に當り利用すべき第一の方便は、其の活動性[○]にあり、自然及び人類は本來常に活動せるものなれば、所謂發展とはこの活動[○]を適當に指導し、正當なる發達[○]を遂げしむるの謂に外ならない。幼兒の活動は最も多く遊戯に於て表はれ遊戯によつて兒童はその本性を最もよく現示し遊戯の中にその將來の運命を藏するものなれば、教育はこの遊戯を導きて次第に業務に至らしむるによりて始めて完成せらる。幼兒教育の原理は恐らくこの原理に基いてゐるものと思はれます。即ち幼稚園は單に幼兒を監護するばかりではなく遊戯を以てよく幼兒の性質に應じた活動をさせ、彼等の活動性の満足と共に身體[○]を強壯にし、手指及覺官を練り、其の觀察力構成力等を高めなければならぬと云ふのでありませう。即ちフレーベルの『教育は本來善良なる人の神性を圓滿に發展し、之れを導きて自然と和し、神と一致せしむるに至らしむるを以て其の任務とす』といふ思想によるのであります。幼稚園に於ける仕事の大部分である遊戯を分ちて(一)運動的遊戯(二)作業的遊戯とし、前者は戶外に於て行進、跳躍、舞踏等をなし、(これに結合して唱歌を練習し)後者は庭園の草木培養と、卓上に於ける恩物使用の遊戯とにするのであり

ます。私の次に述べ様とするのはこれ等幼児保育の幾分を受持つ、運動的遊戯についてであります。

以上の如き原理に基づいて幼児體育指導の目標を述べると次の如きものではありませんまいか。

(1) 身體の柔軟性を保持せしめ、後に至りて矯正運動の必要を防ぎ、又はこれを少なからしめると。

(2) 用心深いこと、注意、獨立行動、豫期せざる指揮に對する敏速な應答を獎勵すること。

(3) 大なる活動に依り呼吸及び循環作用を刺激し、健全な發育を助成すること。

(4) 快活、陽氣、不屈、獨立の精神を鼓舞すること。

而して小學校へ來る頃には善良（嚴密ならず）なる直立姿勢に對して相當の練習が積まれ、行進、駈歩、舞蹈、行進、跳躍の如き動作に於て一定の旋律を保持し、遊戯に於ける公正なる態度の基本を領解せしめたいと思ふ。

三

然らば運動遊戯その他の材料には如何なるものが適當でありませうか。材料を選択するには如何なる標準によるべきかと云ふのであります。彼等の一般心身狀態及び諸本能がこれに形式を與へるため、各年齢によつて變化するのでありますが、幼兒には模倣遊戯、想像遊戯が主として行はなければなりません。即ち模倣想像遊戯に關係したものの中から適當なものを比較的多く選擇しなければなりません。

今私の考へる一般的基準を申述べると次の様であります。

A 體操及び姿勢

1 姿勢

(イ) 跪坐 踵の上に坐す。

(ロ) 脚伸坐姿勢 兩脚を揃へ膝を伸ばして前に出し、脊を眞直にして坐す。(この姿勢は支持することが困難であるから長く保たせてはよくない。)

(ハ) 開脚伸坐姿勢 これは前者と同様にして開脚するのである。

(ニ) 休息開脚脚伸坐姿勢 前記の休息として兩手を兩側床上に置き、膝を僅かに屈げるのであります。

以上は直立姿勢以外の特別なものに就て述べたのでありますが、この外種々あることと思ひます。

2 體操

(イ) 軀幹運動

全脊柱の下屈運動

幼兒の體操教授の主要目的は骨骼の柔軟性と、運動の範圍を増加する點でなければなりません。この軀幹前屈運動は、年長兒よりも幼兒に容易でありますから活潑な動作を要求しても差支ないのであります。運動に於ける始の姿勢として直立又は脚伸坐姿勢を用ふるときは脚を十分に伸ばさなければなりません。

(ロ) 平均運動

脚を後に屈げ足を支ふ 片膝を十分に屈げて足を後に挙げ、片手にてその足の甲を支持させるのであります。教師の眞似をさせた方がよいと思ひます。

糸を針に通す 兩手を體前にて組み、片脚を舉げて、今兩手で作つた輪に入れ、下屈して其の足にて立ち、同じく他の足も通す、又これを反對に行ふのであります。(平均運動として許りてなく腹の運動にもなります。)

シーソー 二人宛向ひ合つて手を取る、一人がシカと立つて支へ、他の一人は膝を深く屈げ、次に反對に之を繰返す。一人が下になれば一人は立つ、熟練すれば二人同時に働く様にする。

(ハ) 跳躍運動其他

兎ホツプ 兩膝を深く屈げ、兩手を兩膝の間にして床上に置く、次に兩手を前に進め、少し跳ねて兩足を兩手に近づける。この二つの動作を早く續けて行ふのであります。

カンガル―跳躍 足を閉ぢ兩手を揃へて胸の前にし指は前方を指す、次に膝と腰とを少し屈げ手と足の位置を保ちつゝ前に跳び出来るだけ長いバウンドをさせるのが目的であります。

熊の歩行 又は龜の歩行。

手と足にて歩行させます。體を低くして四肢を交互に伸ばすのでありますがこの四肢を十分に屈伸す

る點に目的があるのであります。

(二) 伸 臂

伸臂運動 伸臂運動に於ける主要點は伸張に對する努力であります。臂上伸では身體全部を伸ばす心持で行はせ、側伸運動にては胸を横に伸ばす様に感じさせなければなりません。

3 遊 戲

(イ) 模倣遊戲

鳥。猫と鼠。蝸牛の迷路。馬の早足。汽車ごっこ。人形遊び。自動車ごっこ等（其の他彼等の生活に注意すれば反射的の模倣あり、有意的の模倣あり、種々の形式によつて現はれるのでありますが、體育的に効果のあるものを列記したのであります。）

(ロ) 想像遊戲

砂場遊び。

(ハ) 動作遊戲（唱歌遊戲）。説明を省略することに致します。

四

以上材料とすべきもの 一端を述べた心算ですがさて然らばその方法はと云ひますに、前にも申し述べた通り、只監護ではなく或程度迄は積極的に交渉したいと思ひます。幼兒の身體練習案の一般のもの

のを英國の例に就いて見ると次の様であります。

(六才兒)

- 1 自由遊戯
- 2 合圖にて沈黙(直立姿勢)。
- 3 自由動作。隊形。呼吸運動。
- 4 軀幹運動。
- 5 臂の運動。
- 6 平均運動。
- 7 行進、駢歩及び跳躍。
- 8 遊戯。
- 9 靜かに終る。

(五才兒)

次の相違點の外凡て六才兒に同じ。

- 1 一定の練習及直立姿勢なし。
- 2 最後の學期に於てのみ呼吸運動。
- 3 一定の臂の運動無し。

併しこゝに掲げた様な運動順序を常に嚴守する必要はなく、時によつて自由に變化して然るべきだと思ひます。實際方法には各々獨特の立場に立つて色々の方法に依られるものと思はれますが實施の際特に注意すべき諸點を述べて見たいと思ひます。

- 1 幼兒をして出来るだけ高く跳び、出来るだけ自由に走る様努力させなければならぬこと。

2 運動の自由を拘束する様なことなきこと。

幼児は自由遊戯に於ては考へらるゝ程疲勞するものではなく、寧ろ拘束によつてより大なる疲勞を來すものである。

3 運動は一般的に活動、動作の次第増加を主要點とし、正しき微細な事柄に就いては必ずしも要求しないこと。

4 各動作に於ける一定の目的を示して其の助とするがよい。例へば軀幹運動に於て「何かに觸れる様にせよ」「何かを見よ」と注意し、臂の運動に於ては「出来るだけ高く」「側の何に觸れる様にして見る」と暗示を與へるがよい。

5 直立姿勢は先づ基本的要點より修練し始めなければならぬ。即ち

a. 膝を眞直に伸ばす。

b. 上體を直くす。

c. 肩を下げ、軽く後方に引き、前方を左右平等にす。

6 規定ある遊戯は如何に簡單なりとも、幼児が規則を諒解してこれを守り得るに至らなければ課してはならない。

7 想像を刺戟するものについては取扱上大いに注意しなければならない。一、二の例を示せば次の通りである。

a. ボールのつもりになつて出来るだけ高くバウンドしなさい。

b. 家鴨のつもりになりなさい。兎のつもりになりなさい等。

c. 燕になつたつもりでおりやいなさい。

8 模倣と號令による方法を加味すること。例へば

a. 斯ふして跳びませう。

b. 臂をかふして伸ばしませう等。

9 音樂の利用を行ふこと。(説明を省略す)

10 反復練習を重ねること。

幼兒が反覆を喜ぶことは、凡ての教師の知つてゐる所であります。この事實に即して十分反覆練習させなければなりません。只併し不意の場面を設けなければならない事に注意しなければなら
ないと思ひます。

この外隊形問題とかその他色々重要な問題が取殘されてゐることを知つてゐます。併しこの上述べる
紙數と經驗とをもちません。

尙、滑り臺、ブランコ、シーソー、杵のぼり、動跳臺等、器械それ自身が有する目的のために使用する
器具に對しても同様説明を省略させて頂きます。杜撰なまゝを述べました。

以上

私の幼稚園

水島 さゆり

——泥棒の巻——

時雄「水島さん、泥棒の話してよ。」

園長「はいよ、いくらでもして上げませう。」

時雄「三つでも四つでも？」

園長「勿論、さ始めますよ。」

園長の頭の中へは、幼時の思ひ出——郷里の村での泥棒の話しが、次々と浮んで来る。

頬かぶりに冷水

村の酒屋には、今日の賣上金が澤山、錢箱の中に入れてあります。村中で澤山のお金のあるのは酒屋だけ、あとの家は皆お百姓ですから、お金はほんのぼつちりしかありません。泥棒は酒屋の錢箱を盗み出さうと思つて、月の無い眞暗な晩に、

こつそり酒屋の裏口へやつて來ました。

村中の人が一人残らず、ぐつすり眠つて居て、酒屋の裏口へ泥棒の來た事を少しも知りませんでした。お寺の白犬も、役場のワンワンもまるで知らずに居りました。

酒屋の裏口の戸は、中からしつかり鑿金がかけてありましたから、いくら明けようとしても明きません。泥棒は仕方がないから、裏口の敷居の下の土を掘り始めました。やつともぐり込める程の穴が掘れたので、手拭で頬被をして、家の内側へ先づ頭を突込みました。其の拍子に、ザーアツとばかり頬被の頭が冷水を浴びてしまひました。吃驚仰天、泥棒は忽ち頭を穴から引抜いて、後をも

見ずに逃げて行きました。

物音に驚いて、酒屋の家中の人々が起きて見ると、お勝手で下女が寝衣のまゝで、からの手桶を提げて、たまらなさうに笑ひこけて居りました。

婆さん刃物を持つて來な

お爺さんとお婆さんとお仲好く暮して居ました。或晩其のお家へ泥棒が這入らうとして、先づ入口のそばの壁に、握り拳の這入る位の穴をあけました。其の穴から手を入れて、入口の戸の繋金をはづさうと思つたのでせう、そつと手を入れたと思ふと、其の手を中からしつかりとつかまへた者があります。

泥棒は眞青になつて、ぶる／＼震ひ出しました。すると家の中で、

「婆さん刃物を持つて來な。」

と叫びました。さあ大變、手首を切られてしまふ事になりました。泥棒はしく／＼泣きました。

切られたと思つた時、手首が穴から押し出されて來ました。しかも掌の中には、お金の包がはいつて居りました。

泥だらけの泥棒

風の激しい眞夜中に、よその米倉から米俵を一俵、また一俵と擔ぎ出してゐるのは泥棒でした。

五俵の米を車に積んで、エンチャラツと引出しました。風がひどいので、松の木が高い音をたててうなつてゐたり、雨戸ががた／＼鳴つたりして、車のさしる音などは少しも聞えませんでした。

暗い道をエンチャラ、エンチャラ引いて行くうちに、急な坂へさしかりました。丁度其の時、激しい風が恐しい勢で吹きつけたので、米俵の車も泥棒も、あつと言ふ間にすべり落ちて、坂の下の泥沼の中へ、ひつくり返しに落ちてしまひました。泥棒はやつとの事で這上つて來ましたが、顔も體も泥だらけの泥棒になつてしまひました。

「コラッ」

或ち家へ泥棒が這入りました。皆ぐつすり寢込んでゐましたが、お祖父さんだけは床の中で眼を明けてゐました。泥棒は其のお祖父さんのお部屋へ這入りました。

着物だの帯だの襟巻だの、時計も財布も盗めるだけ盗んで、しまひにはお祖父さんがぬいて置いた足袋までさらつて、大風呂敷の中へほうり込みました。お祖父さんはくすんとも言はずに、泥棒のする事を眺めて居りました。泥棒は大きな風呂敷包を拵へあげました。それでもお祖父さんは何とも言はずに見て居りました。

泥棒がヤツコラセと、大風呂敷の包を脊負はうとした時、

「コラッ」

と一聲天井が抜ける程の大聲で、お爺さんがどなりました。泥棒は吃驚仰天、包をそこへ放り出し

たまゝ、雨戸を蹴破つて雲を霞と逃げて行つてしまひました。

× × ×

今度は園長が泥棒に見舞はれた話です。此の家へ本當に泥棒が這入りました。留守を見込んで、庭木戸からこつそり這入り込んで來たのですから、例のあき巢ねらひと言ふやつです。夕方園長が歸宅して見ると、きちんと締めてあつた箆の机の抽手がどれもこれもひき出したまゝになつてゐます。

やられたかと、急いで箆筒の中をしらべて見ると、どの抽出もごつた返しになつてをります。仔細に點檢して見た所、幸な事には一品も無くなつて居りません。やれ嬉しやと一息ついて、今度は針箱の底をさぐると、ぼろ切に包んで用心して置いた紙幣數枚が、そつくり出て來ました。泥棒はお金を目あてに搜したらしく想像されますが、隨

分間拔な泥棒だと笑つてやりたくなりました。

蠟燭の光で庭の地面を丁寧に観ると、霜柱で浮き上つた土の上に、ゴム靴の大きな足跡がついて居りました。何も盗まれなかつたのは、仕合ですが家中ひつかき廻されたかと思ふとあまりいい氣持は致しません。まだ其の邊をうろついて居るやうな氣もします。

今夜は十分戸締に注意をして寝ようと、何處も彼處もしつかり締めて、さて目覺しをかけようとする、これはしたり目覺時計の姿が見えません。はて確に此處にあつた筈なのに、見えないのは不思議と、念のため廣くもあらぬ家の中を捜しましたが、遂に見つかりませんでした。てつきり盗まれたのです。

何も盗まれなかつたと喜んだのはあやまりで、毎朝起して貰はねばならぬ目覺時計を持つて行かれてしまひましたのでした。

高價な品ではありませんが、デン／＼太鼓の形をした時計を、四本の柱がかゝへて、お屋根をかぶつて立つてゐるのでした。純金ではありませんが、全體が金色に光つてゐました。

惜しくはあるが、忙しくもあり、あまり大した物でもないので警察へ出頭するのを見合せて、もよりの署長さん宛に一筆書きました。時計の形と價格も書添へて置いたのです。

二三日たつと、ひよつこりお巡りさんが訪ねて来て、盗難の模様を委しく聞きたり、當分日中も夜分も氣を附けて上げませうと言つて下さいました。園長はお巡りさんが急に有難くなりました。

一箇月もたつた頃、別な警察署から、盗難品が出たから取りに来るやうにと言ふ通知が來ました。新しく目覺時計を買つて、不自由は感じなかつたし、もう遠に泥棒事件など忘れてゐたので笑止千萬な心持で件の署へ出頭しました。

型の如く代書屋で何くれと書いて貰つて、導かれるまゝに刑事部屋へ這入つて行くと、一刑事が、もえぎの風呂敷を出し、盗難品をそれゝに渡して居りました。着物や帶など受取つた一人の男は、腰をかゝめながら、

「はい其の風呂敷も手前どものもので御座います——。」

と言つて居りました。やがて刑事が私に向つて、
「これですか。」

と差出したのを見ると、まがふ方なき園長の目覺時計でした。

「はい、左様で御座います。どうも有難う御座いました。」

うやゝしく受取ると、

「此の目覺を盗んだのは、貴金屬専門の奴でしてね、市内から市外へかけて百五六十軒も荒したんですよ。」

と言ふ刑事の話、聞いて何とも言へぬをかしさが込み上げて來ました。

ただ金屬と言つても、園長の家には、針と鋏と、

火箸と、庖丁位しかありません。中で少し金目の物は目覺時計、それも只の金屬で、貴金屬とは言はれません。金色に眼が眩んで、純金とも思つたのか、何にしても、其の目覺が再び歸つて來た事は慮外の喜びで、如何にもをかしい事でありました。

時雄「水島さん、今のは面白くないよ。」

園長「あいよ、も一度やり直し、今度は面白過ぎて、

お臍が宿がへをしますよ。」

時雄「いいね、面白いいね。」

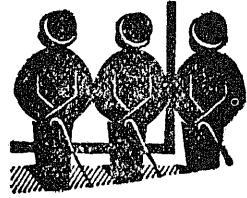
園長「泥棒がねえ、水島さんの留守に、そーと此の部屋障子をあけてね、こんな顔をして覗いたのよ。」

時雄「そしたら。」

園長「そしたらね、目覺時計が、コッチ、コッチと言つたものだから、泥棒がこつちの方へ、のそりゝと這入つて來たのさ。」

時雄「アッハハハハハ……。」

(をばり)



幼児の遊びを如何に整理するか

東京女高師 三 浦 ひ ろ

私達が未だ小學校に入學しなかつた程以前の幼

兒時代にかへつて見ますと、私達の其の頃の一日
一日が食べる事と、寝る事と、そして遊ぶ事とで
つきて居たやうに思はれます。勿論考へ様によつ
ては成年期に達した人達でもこの三つの事から一
日の生活が成り立つてゐると言へない事はありま
すまいが、極平易な考へ方にしますと、幼児期に
ある子供達にとつては此の遊ぶと云ふことが生活
の著しい特長となつて居ると思ひます。従つて遊
びを以つて幼児の生活を代表する事も出来るかと

思ひます。

かう考へて來ますと、この時代に於いては如何
によく遊ぶかといふ事が彼等の生活を價值づける
大切な要素となるのでありませう。そしてこの遊
びが如何に整理されるかと云ふ問題は、彼等の將
來にかゝはる一大事となるのでありまして、その
點から將來の貴い生活に對する偉大な潛勢力を生
ずるのであります。

しかし乍ら彼等幼兒には自らの力を以つて彼等
の遊びを處理する事は不可能なのでありまして勢

そこには他の力を加へなければならぬ必要が生ずるのであります。所謂幼稚園の保育は即ちこの幼児期の遊びを最も理想的に整理しやうとする好意と努力によつて行はれて居る人間教育の一部と考へたいのであります。

ことに我が日本の幼稚園の教育は未だ幼児の全生活につき入つて、彼等が如何に喰ふか如何に寝るかと云ふ點にまでふれる事は出来ないもので幼児の保育は遊びを導くといふ一點に集つて來なければならぬのであります。

遊びの整理はこれを大體二方面から考へる事が最も簡單であらうかと思ひます。即ち身體的方面と精神的方面の夫れであります。しかしかう申しましても心身を二元的に見てゐるのではありません。只便宜上この兩面から考察をしたいのであります。ですから決して何れを偏重するといふ事はない筈でありますが、しかし子供はよく吾々が「一

時もちつとしてはゐない」と叱る事のある程に靜止してゐる時は少く常に活動してゐるもので彼等にとつてはその一舉手一投足が貴い生活なのでありますから幼児期の教育はこの方面を特に高潮してこの方から精神生活に及ぼすやうにするのが可なり大切な事ではあるまいかと考へられます。

遊びの身體的整理に於ける主眼點を私は二つに分けました。即ち一は身體の發育助長に資するやうにアレンジして行く事で、他の一つはその身體運動を通して子供の劇的本能を陶冶し、精神訓育の各方面に資せんとする點であります。さてこの二つの目的を達する爲に先づ私達の老へねばならぬ事は、その材料でありますがこの材料選擇といふ事が非常に困難な事であります。しかし大體に於いては幼児時代に於ける筋肉骨格の完全な發達生育をはかり、身體各機能の健全な活動を促し同時に精神訓練上の效果をして完全ならしめ、身體

を彼等の魂の立派な殿堂として築き上げるに足る材料を選べばよいのでありませう。それには勿論科學的の知識の上に立つて或は幼兒の心理に、生理に、解剖に、正しい見解を以つてアレンヂされなければならぬ事になります。しかし夫れかといつて小學校に行はれて居る如き體操のやうな材料が選擇せられるやうな事がありましたら、私は大變にかなしい事だと考へなければならぬと思ひます。勿論體操のやうなものが非科學的だと申すのではありませんし不合理だといふのもありません。現在に於いては最も科學的なものゝ中に數へられるべきものであらうかと考へます。只餘りに理智的に整理せられ過ぎて居ります爲に賛成出来ないものであります。相當彼等の理智が發達して、結果の爲に過程を喜ぶ事が出来るやうになつた時にはいいのですが、幼兒期に於ける子供達には彼等の心理的方面から考へて不適當だ

と思ふのであります。ですから理智的に完全に整理せられるといふ事は行ふべくして行ひ難い事だと思ひます。たゞ彼等幼兒の日常生活から最も體育的なものを選び又は彼等の遊び中非體育的な部分を訂正してゆく方がよいのだと思ひます。つまり幼兒の日常生活の中に含まれてゐる出來事をとつてこれを身體的效果をもたらし道へと整理してゆきさへすればいいのであります。

しかもこれに或リズムを加へて一つのリズム運動として行ひ得る材料でなければならぬのであります。私はすべての體育運動にもつと／＼リズムを重要視してほしいと叫びたいのであります。が、ことに幼兒の運動には之を高潮したのであります。何となれば運動に一定のリズムを與へるといふ事は最も自然な事だからであります。そして最も自然なるが故に其の適當なリズムの中に行はれた場合には最も能率が高められ、且つ快い運

動の連鎖として何等の不自然もなく終始する事が出来るのであります。それはリズムといふものは宇宙萬物に存在するところの一つの現象であつて宇宙の平和はこのリズムが正しく行はれた場合に見られるのでありまして、人間も亦この宇宙の一現象たる以上一のリズム體でなければならぬ筈であります。ですから吾々の運動をリズムミカルに行ふといふ事は最も自然な事であつて且つ重大な事なのであります。私共がしばしば耳にする事なのであります。あゝ鍛冶屋の店先から聞える威勢のいゝトンテンカン／＼といふ響は實に正しく反覆せられてゐるリズムなのであります。其の他木樵の鋸の音に、石屋ののみの刻みに一定のリズムを知る事が出来るのでありまして、鍛冶や、石工木樵は彼等のこのリズム運動に於いてその仕事の能率を高め、一日の疲勞を半減又は三分の二減してゐるかも知れないのであります。

こんなわけで私は幼児の運動が氣持のよいリズムミカルな運動として終始出来るやうにしたいのであります。尤もこのリズムを如何に發表し訓練するかといふ點については更に深くリズムといふ事について心身の關係を考究しなければならぬのであります。そのいはゆる方法論については、更に述べることにして、とにかくこゝでは、幼児の遊びを最も自然であるやうにする爲にはリズムを伴はせたいのであります。このリズムを伴はせる爲に最も手近な方法は樂器を以つてひき起されるあるリズムを伴はせるといふ事であり。即ち子供達の運動に際して、その運動が一定のリズムにまとめられ且つ次第に高潮に達するやうに樂器をもつて伴奏させるのであります。

さて私は以上述べたやうに材料選擇の要件として材料は子供達の生活に極めて親密なものから選ぶやうに、かつ一定の秩序と目的を有したもので

あるやうに、と列舉しましたがそれを更に一二の具體的な例にあてはめて考へてみたいと思ひます。

私はこゝに *The Elephants go down the Street* といふ材料を探りませう。直譯すれば町をゆく象とても申ませうか、曲は四小節から成る極めて短いものであります。動作は只四這になつて地面を或は床上を、芝生をドッシリ／＼歩くだけの事で、何等ことさらの技巧を要求はいたしません。たゞ出来れば子供が自然にうけ入れた象の感じが如實に發表せられてゐればよろしいのです。しかしかういふ例は、象の歩くのを見た事のある子供は極めて少からうと思ひますから、我々の實際に對しては或は非常に不適當な例證かと思ひますが今私のいひ度い事を云ふ爲には至つて都合のよい例なのであります。

それは五月のサトンでの出来事でした。イギリ

スの五月と言へば誠に氣持のよい若葉と花のシーズンです。其の五月の午後、柔い日ざしが若葉のかげを地に落してゐる頃、サトンの町の街道を見世物やの親方がつれの男二人と共に、大きい象を二匹つれて來ました。ドシン／＼と地響をさせてアスファルトの道路をゆく音に驚いて窓を開けるとこの有様をみたのです。つひ好奇心にかられて外に出ました。何ともいはない光景でした。兩側に美しいコロニエの並木をもつた青葉の道を灰色の象が體に似あはぬ小さいかはいゝ眼をまぶしさうにして歩いてゆくてはありませんか。見物の子供達だけでなくて大人の私達もつひ何かしら妙な心持になつて微笑を禁じ得ませんでした。とやがて象の一行は私達觀衆に一種のものなつかしい印象を残して遠くへ消えて行きました。そのあと人々が各々今の光景について語り興じながらかへりかけた頃前をゆく子供の群の中の一人が突然

歩道に四這ひになりました。すると他の一人もそれにつぎました。又つゞいて子供が三人、六つ七つの子供だつたでせうか、かぼそいあどけない手足を如何にも象の足を思はせるやうに重々しく扱つて、のつそり／＼興に乗つて歩き始めました。この様子が私達の心を捕へてしまつた事はいふ迄ありません。皆のものは子供は實に偉大なアーティストだと思はなかつた筈はないと思ひます。それから一年たつた或時私は小さい子供にさせる遊戲としてこの町をゆく象と題する材料を見出したのです。割合にどつしりと重い曲を聞いた時に、私にはサトンの町の思ひ出がよみがへつて來て、何といふよい所を捕へた材料だらうと思ひました。

誰がこの見事に自然を捕へたゲームを指して單純だといへるでせう。誰が藝術味に乏しいといへるでせう。しかも極めてリズムミカルであり、相當

な運動量を表してゐる點に於いて異議をさしはさむ餘地はありますまい。

これに似た材料を私はよく見ました。家鴨、ボートレース、シーソー、風にふかれる柳、などと言つたやうに子供の日常生活に表はれる事象其のまゝを取つてしかも如實に表したものを。しかし我が國で私はかういつた材料に不幸にして餘り度々は接しないやうです。

私が所謂子供の遊戲といふものを見て少くとも次の事を考へさせられるのです。

一、歌詞を逐字的に動作に翻譯した點、そうして之から少くとも二つの不自然を生み出してゐます。一つは詩歌といふものはどんなにしても一言一句動作になほすといふ事は出来ないのです。が、それを仕遂げたといふ所に無理を生じてゐます。

今一つは振付け者はいづれも成人で、幼兒時代

と相距ること甚だ遠い人達もあります。その幼児時代の消えかけた淡い追憶を辿つての仕事になつたものですから如何にも子供らしい技巧はありますが子供の自然からは遙かに遠ざかつてしまつてゐるのです。事實私達が子供にならねばならぬと氣づいた時は子供からはなれてしまつた時なのですから。

二、偽リズム運動の危険であります。

リズムといふものゝ説明が極めて容易ならざる事で、従つて眞のリズムと偽リズムとは常に混同しやすいもので警戒を要するものであるといひますから無理もないと思ひますが、リズムミカルな遊戲と稱してゐるものゝ中にさへ途方もない不自然なリズムを持つたものがあるやうに考へられます。一寸やつてみて調子のよいものをリズムミカルだといふやうな幼稚な考へ方はないにしても、それに類した考へを全然持たないと

いひ切る事が出来ない程リズムといふ事を餘りに單純な意味に考へてゐるやうにあもはれます。しかしそれではリズムといふものが（人間の否宇宙の重要素である）餘りに無視されてしまつた事になつてしまひます。そしてこれを無視しては人間の教育は完全に徹底するわけにゆかない事にさへなるのでひとり幼児の遊戲に大事な事許りではないのであります。

以上誠に雜然としてゐますが要は、幼児教育は決して人間教育の中の極狹少な範圍ではなくてむしろ重大な部分をしめてゐるといふ事。その幼児教育は遊びの整理といふ事をもつて代表せらるべきではあるまいかといふ事。遊びの整理は心身兩面から考へられるべきものである事。その身體的方面の整理に身體そのものに關するもの、身體からたましいまでねらふものとの兩面が存在する事。身體的方面の整理に選ばれるべき材料は子供

の日常生活、自然界から採られるべき筈のものである事（これは即ち子供の創造、想像の力を十分に發表させこれを訓練する機會を與へる事になると思ひます。）動作は反リズム的のものをさけなければならぬ事。等でありまして、幼兒教育に經驗も知源もない者の或はいひさうな事のやうでもあります。しかしリズム的ならぬリズム運動をリズム運動として與へたり、大人の作つた僞子供の技巧の殻の中に子供を閉ぢこめて置いたりしては、自然の中を最も自然に生きてゆかうとする彼等の將來が案じられてなりません。

洲の先に鶴下り立ちて春の色

芭蕉

暖の椿見ながら午餉かな

爲王

兒童の劇演出

長尾 豊

一

ひと口に劇と言つても職業演劇と素人演劇があり、職業演劇と言つても一から十まで營利本位で看客を迎へることに汲々としてゐるわけでもない。又素人演劇の中にも、お嬢さんが踊のお遊びに出たり、若旦那お道樂の素人芝居をしたりするやうなものばかりでなく、ほんたうの意味の娛樂劇とか、共同劇とかいふものがあるわけである。なぜそれが「ほんたうの意味」かと言へば、お道樂のお芝居が職業演劇の單なる模倣であり、引いては俳優その他劇場關係者の模倣に陥り易いのに反して、これは純然たる娛樂休養、もしくは共同精神の涵養とか、演出による戯曲の鑑賞とかいふ

確固たる目的の下に行はなければならないものだからである。職業演劇は少しも樂しむべきものではないが、その模倣は明らかに樂しむべき事であり、同様に俳優その他劇場關係者は少しも樂しむべきものではないが、その模倣は明らかに樂しむべき事である。

すると素人演劇といふものは、職業演劇とひとつであつてはならず、又或意味から言へばそれから遠ざかれば遠ざかるほど素人演劇としての眞價が發揮出來るとも言へる。かの藝術劇場や小劇場の運動は、職業演劇に對する藝術擁護の運動であると言はれてゐる。假にこれだけの事でも、學校劇や兒童劇の當事者が知つてゐて、しかもそれが

ほんたうに分つてゐたならば、その脚本から舞臺服裝、演技一切の點において、職業演劇の眞似は出来なかつた筈である。

「幕がないから劇が出来ない。」と歎じた訓導もあれば、「終ひに並んで揃つてお辭儀をするのはあかしいから、幕があつた方が好い。」と、物にも書いた教育者もあつたさうである。もし假に引幕があつたとしても、講堂、教室、雨天體操場の何所にどうその幕を釣るのであらうか。

二

幕がなければ、もしくは背景がなければ、芝居らしくないとは、或人々の考へる所らしい。けれども兒童の劇演出といふやうなものは、實はさういふ他からの借物によつて、強いて「芝居らしく」見せる必要の少しもない物であり、又、幕がなければ芝居でない、と見るならば、その芝居のない所に生ずる純眞な劇的動作が、ほんとうの兒童演

出なのだとも言へる。

劇といふ所から、只職業演劇の、劇場の風に則れば好いと思ふのは、劇を知らない人の當然陷る所ではあらうが、これは又餘りに早急な劇への外形的服従である。それよりもむしろ、原始劇から表現派まで、未開人の演劇的動作にも兒童の劇的模倣にも何所にも通じて流れてゐる、ほんたうに劇的な内容とか、様式とかいふものを職業演劇の中から見附けて來た方が好いと思はれる。「劇の事が知り度くば劇場へ行け。」と言つた人がある。

一方においてかういふ芝居らしく見せようと努める人があるかと思へば、一方にはまた劇的でもないものを劇であるかのやうに思つて平然としてゐる人もある。どちらも間違ひである事に變りはない。

劇演出における服裝の問題は、都會でも地方でしばしば論ぜられたやうであるが、幼兒の活動

とか、假想の精神とかいふものを無視して、本式に衣裳を着せたり、又は少しの服飾を剥ぎ取り、それよりも少しの持物を捲ぎ取る事によつて、活動的な表現的な、児童演出になり得ると考へるやうな場合も、同様にあやまつてゐると思ふ。

どうして又背景や引幕や服裝が、そんなにまで必要なのかと考へて見れば、ひとつにはそれが職業演劇の形式の模倣でもあるが、モウ少し考へて見ると、どうもそれは「見せる物」にしようとする所から、知らず／＼看客本位である職業演劇の精神にまで感染していくのではないかと思はれる。

三

演者の身心の發達を目的とする、演者本位の児童演出が、どうして職業演劇に似て來るかと言へば、演者自身進んでその模倣をする場合も、場所に依つてはあり得る事である。又輕卒な當事者がすべての範を其所に仰いて、もつて能事畢れりと

する事も少なくない。けれどもこれらの原因は、見せる物化しようとして、劇の本意を忘れる所に根ざしてゐると思はれる。此の場合、責を當事者にのみ負はせて、児童演出を見る人達が、いはゆる無理解な見物根性であることを擧げないのは、片手落ちであるかも知れない。併し、よく考へて見るとそれも責は當事者にある。當事者が演出の精神を明らかにして掛れば、さういふ間違つた考をもつ父兄學校關係者はなくなる筈である。けれどもその反對に父兄學校關係者の意を迎へてまで、児童演出を見せようとするならば、破綻百出物議を醸すのはむしろ當然過ぎる位當然の事である。

児童演出の理論や學說としての可否はとにかくかういふ實狀を見ると、児童をして舞臺に立たしめることの可否といふやうな問題が、これから先まだ／＼度々繰返されるだらうと思ふ。今まで児

童演出は、新奇を誇り、華美を喜ぶ人々の自己宣傳や自己陶醉の具に使はれてゐたやうでもあつた。それがまじめな教育的關心から出たものとは遺憾ながら受取れぬまでに、その脚本から舞臺演技一切の點において、少しの研究の跡も窺はれず用意の缺けてゐたやうな演出でもあつた。今日なほ學藝會や兒童大會などに、それが繰返されてゐるやうでもある。

見せる物でもない劇、遊戲としての兒童演出、それは流行によつて慌たゞしく研究されるものでも、又は平生投捨てゝ置いて、差迫つた期日に焦慮して一時を糊塗するものでもない。教育演劇の一科としての兒童演出は、これから徐ろに研究されるものと思ふ。

萌えいづる

草の芽見れば

この春の

土の香ひの

心地こそすれ

萌えいでゝ

やゝひろがれる

落の葉に

風ふきしきて

日ぬもす曇る

良きふりかへり

—親しき友に—

中村 楠雄

(一)

本當に長い間御無沙汰致しました。夏休みの終頃御たより申上げてから、ずっと其のまゝになつてゐたのかと考へて居ります。

あれからも度々お伺ひ致したいと存じながらも何せよ本當に文字通り多忙な日々を送つてゐたのですから、ついでに御無沙汰致してしまひました。

益々御健康でいらつしやる事をお察し申上げて居ります。個人の問題についても色々申上げたいと思ふ事もございますが、今度はすつかり省略させて貰ひます。

それよりも昨年九月以降の私共の幼稚園の様子をあれこれと申上げる方が、引き續き私が元氣で暮した事をよりよく知つて頂けませうし、又一層御興味も深く讀んで頂けやうかと存じます。

(二)

九月から十二月まで、つまり第二學期間の私共の生活を、一口に申しますなら本當に嬉しい生活であつたと云ふ事でありませう。

前學期にも申上げました通り、私共の仕事は小さいながらも着々と進んで參りまして、日に月によりなく、より満足な方面へと向つて來たのたのでございますが、この二學期程愉快な生活をした事

も近頃ない事でありました。

どの先生もどの先生も、それは／＼緊張してぐれました。明るい氣分で元氣に快活に振舞つて下さいました。お互に助け合ひ進め合ひ所謂涙ぐましいまで美しい人情味があふれた生活をして下さいました。

朝なんかもとても早いのです。いつも殿りをつとめて出勤するのは私でした。

夕も亦大變おつめになります。自由に何時にても放課後は歸られる定めてあり、名札さへ裏返しをけば私へ挨拶などして下さらなくつても結構ですからと申上げてゐますのに、しつぽりとそしてまめ／＼しく仕事をしてゐて下さいます。だから遅出の早びけは私だけのやうな事で、何にせよ先生方にすまぬ／＼と思ひながら、一朝も先生方に先んずる事も出来なくて、二學期をすごしてしまひました。

(三)

それだのにどなたも私をとがめる事もなくて、美しく／＼やさしく許して下さいつて、否々むしろそんな事は全く氣にもとめず、只々自分の仕事に一生懸命にいそしんで下さいました。

或時には

「皆さんは私へ氣兼ねして、そんなに晩くまでつめて下さるのですか。さうでしたら私がかへつて遠慮が出来て、少しつめて仕事をしたいと思ふ時にも、早く切りあげねばならなくなり、どうも不自由で困りますから——どうぞ定めの通り、御用のすんだ方からサツサとお歸り下さいませ」
とも申して見ました。

さうすると

「イ、エ先生、私共は勝手でございます。用事のある時には何時からでも歸らせて頂きますから、どうぞ先生にも御自由に」

と云ふ御言葉です。

こんな事を言はれますと全く困つてしまひます。只々感謝です。何かしら熱いものがグット上の方へこみ上げて来るやうな氣持になります。

また或時には

「ねえ△さん、わたし昨日七時までかゝつて仕上げてしまつたの」

「さう大變ね、でもよかつたわね」

「わたしね、うちへ晩くなるからつて言つてなかつたのよ、お母さんにしかられるかと思つて、心配しながら歸つたの」

とか

「うちの××子ね、わたしの歸りがおそいものだから電車通りまで三べんも見に來たのですつて」

「それは御無理ありませんわ。まあいぢらしいこと」「わたし今朝はとても早かつたのよ」

「アラッ、どうして」

「今日あたしの組で〇〇遊びを致しますの、其の準備が昨日どうしても出來上らなかつたものから、今日は△時から來ましたの」

「まあ、そして出來てしまつて」

「今やつとよ」

「そんなになさらなくても、あたし手傳つてあげますのに」

そんな問答を別室で聞くともなしに聞く時にはすまないやら有難いやら——大勢の父母と子供に代つて、ソツと其のお話の方へ頭を下げる事もあります。

一々の父兄へ、この涙ぐましい一生懸命な先生の努力を傳へて、心からな感謝を差上げたいと思ひます。

或時には職員會の席上で、或時には個人的に「朝早く、夕もつめて、一生懸命仕事をして下さると云ふ事は、幼稚園のために、また子供の爲め

にどれ程幸福な事であるか分りません。けれども私共は自分の健康と云ふ事、家庭をととのへる事自身の子供の事、何れも考へねばならぬ大切な問題であります。これらをよくする事も國家への大きな奉仕なのですから、そこはよく考へて程よくお仕事をして頂きたい」とも申上げたのであります。

(四)

ここまで申上げて参りますと、私共の幼稚園での生活ぶりが大方分つて頂けただらうと存じます。

全く私共は自分の仕事に生活に没頭してゐます。面白くて、愉快で、皆がいそ／＼としてゐます。

この精神的に、肉體的に非常な努力をしてゐて下さる先生方に對して、誠にうすい御もてなししか出来てゐない事を考へますと、相すまんと申し

ませうか、いやもう何とも申上げやうもない始末です。これは全く私の力の足らない結果でありまして、汗顔此上ありません。

物質的な待遇と仕事とをテンピンにかけてゐるやうな事では、本當の仕事は出来ない、と申せば全く其の通りとも申せませうが、それにしても只今の状態では餘りに申譯のない事だと考へて居ります。

それで先生方にお仕事もして頂くと共に、追々各方面の了解も得て、此の方面もぼつ／＼向上させねばと、色々心を碎いて居ります。

けれども幸ひな事には、前にも申上げました様に、先生方には全く物質的方面は眼中になく、只々仕事其のものを楽しんでゐて下さいますので、私もどうかこうにか、横着にも日々を過させて貰つてゐる様な次第であります。

(五)

さて今までは私共の二學期の生活の大體の輪廓を申上げたのでございますが、それではこれから少しく具體的に記して見る事に致します。

まづ保育細目を拵上げた事を申し上げます。保育細目と云ふ様な文字は、幼稚園にとつて應はしいかどうかと云ふ問題はまあしばらくをくとしまして、兎に角私の所は保育細目と云ふ名にしてしまひました。『保育細目つて何です』と云ふお尋ねもあるか分りませんが、まあ小學校の教授細目のやうなものと考へ下すつても差支ありません。

小學校では各科目別に細目を作りますが、私の所でも各保育項目別に作つて見ました。

そこで又保育項目の事を申上げねばなりません、今度の新令で、談話、手技、唱歌、遊戲、觀察の五つを文字の上ではつきりと、幼稚園の保育項目として擧げてゐるのであります。しかしそれは何も五項目に限る必要はないので、吾々幼兒教

育者を信頼して、時勢の進運に伴ひ幼時教育上必要なりと思ふ事は、審重考慮の上なら、直ちに實施してもよい事になつて居る様であります。

しかし私共の所では、今回は前に擧げました五項目だけに限りました。

どうして作つて行つたかと申しますと、まづ各項目についての研究主任が、自分の項目に關する細目を立案致しました。それから其の主任と私とが度々打合せを致しまして完成したのであります。

愈々原稿が出来てしまつてから、謄寫版で各細目とも二十部づゝ印刷致しました。これを只今私共は實施して研究を進めて行きますと共に、關係方面へ其の印刷したものをお送りして批評を頂きつつあります。

私共自身考へて見ましても、横の連絡をもつと十分にせねばならぬ事を始めとして、様々な事を

氣づきます。

この細目の印刷したものを、ほしいと言つて下さる所も、随分あるのですが、まだ／＼改めなければと思ひますのと、たゞの二十部しか拵へませんでしたので、もう餘分がありませんので、實はお断りしてゐるやうな始末であります。

兎に角まづいながらも、私共の力で拵へあげましたものなんですから、私共は可愛がり／＼ながら、毎日これを繰りひろげては仕事を致して居ります。

そこへ過日市の學務課長が當園へこられた時に是非出版するやうにしてはと申されるのです。さう言つて下されば、叱られたのと違つて、先生方も中々晴々しいお顔つきをなさつてゐます。

「それじゃ一つ出版するやうに致しませうか」と私が申し出しますと、さすが先生方も

「まあお待ち下さい。世間へ公に出すと云ふ事に

なれば、私共もつと研究してからでなくては」と申されます。

誠に其の通りであると存じますので、これは其のまゝになつて居りますが、東京の友人も不取敢原稿を送つて來る様にと申して來てゐますし、萬一出版でもする様な事がありましたら、必らず一部御送り申上げます。

さうです、三百頁位のものにはなるでせう。しかし賣れ行く範圍がせまいでせうから、本屋も引き合はない事と考へますから、恐らく出版はむづかしいでせう。でも犠牲的に若し出版でもして下さつたら、少しは幼稚園の先生方に御參考にして頂けませうかと考へては居ります。それから幼稚園に保育細目の必要があるか、どうか、と云ふ問題も起りますが、私共は只今の幼稚園の制度の上から、組織の上から考へても、どうしても必要のある事と考へまして、これを作つたのであります。

けれどもさうした議論を書き並べるのは、此の手紙の本旨でもございませんから、これて省略致します。

この細目に着手したのは第一學期でありましたが、出来上つたのは十月の中頃であつたかと存じます。

實際細目を拵へやうじやありませんか、と申し出したのは私ですけれども、愈々手をつけてからと云ふものは、かへつて先生方の元氣がすばらしくて、今日は談話の研究會へ、今日は手技の研究會へ、と云ふ風に、私しがひつぱり廻されどうして言ひ出した手前、後へもひかれず、内心一寸弱つたやうな次第でありました。

(六六)

それから昨年の十二月十三日、大阪朝日新聞の紀伊版に隨分大形の寫眞と、中々記事も澤山勉強してのせてゐましたから、多分御覽下さつた事と

存じますが、愈々十二月から三月まで、つまり寒い間だけ、幼稚園で御中食をたいてたべさせる事に致しました。

何様貳百六拾人と云ふ大家内の炊事であり、特別の食堂もなく、設備も十分でないと言ふ有様でありますから、先生や使丁の勞力を要することはとても甚だしいのであります。

それでも父兄からの感謝の言葉を——涙の流れるやうな感謝の言葉を——或は口答で、或は御手紙で、或は申込書の添書で多數に拜見して、私共は元氣百倍致しました或時先生はこう申しました。

「こんなに喜んで頂けるのでしたら、わたし達の骨折り位何でもありませんわ、本當に仕事の仕がひがあつて嬉しうございます」……と。

其後父兄の方々の好意で、設備もまづ當座の事を缺かぬやうに出来上りました。

何しろ子供も暖かい御飯が頂かれると云ふのでそれは／＼大喜びであります。

それからおかしいのですよ、今までは御辨當入れに一つしか頂かなかつたのでせう。それに其の同じ器で（御辨當入れを御茶碗の代用にしてゐます）四つも五つもいたゞく子供があります。よくもまあそんなに頂いたものだと思つけにとられます。

後の二つ位は副食物なして頂きます。

「おかづがなくてもよいの」

と申しますと、

「幼稚園の御飯はおいしいから」

と答へます。

でもそんなにむやみに食べさせてはいけないだらうと云ふので、今では子供々々によつて多少加減をしてやつて居ります。

また中には

「おばあさん、おかづを少しにして頂戴、なつて、幼稚園の御飯おいしいから、おかづ少しいの」

と云ふ子供もあるさうです。

また幼稚園で御飯を十分に頂いてくるので、お内て間食を餘りせぬやうになつたと、喜んでくる向もあるやうです。

何々にせよ、この企ては大變よい結果をもたらしてゐるやうであります。

ところが又これを實行するに至りました動機が甚だ嬉しいのであります。それは全く先生方の子供を思ふ餘りの自發に出てゐることです。

私共の幼稚園では、毎年冬になるとお辨當ぬくめを用ひて参りました。所が其の結果は餘り面白くございませんので、何とかよい方法があるまいか、と云ふ事は長い間私共の宿題でございました。けれどもこれだと云ふ名案も浮びません。かねて

岡山の女子師範の幼稚園で、こう云ふ事を實行してゐられると承つてゐましたので、實は昨年度私共もやつて見たら、と話し合つた事もありましたが、色々の都合で決心がつきかねて、其のまゝになつて居りました。所が昨年の十一月に、また今年の御辨當ぬくめをどうするかと云ふ事について、ぼつ／＼皆んなが頭をつかひ始めた頃、丁度岡山女子師範の岡さんが私共の方を見に来て下さいました。

其の時岡さんから色々お話しを承つたわけでしたが、其の頃からもう皆んなが、愈々實行しませうと云ふ決心が出来て居つた様であります。後に職員會のありました時、ふと話しが子供の中食問題に觸れました時、

「今年から先生、内でも御中食を幼稚園でたいてやりませう」

「えゝ、それがいいわ」

「きつと喜ぶことよ」

と云ふ様な先生方の御意見であります。

そこで私はも一度

「所で皆さん、内の子供は二百六十人もありますよ。百人以内とは違つて、お米も一日に二斗以上もたかねばなるまいし、それを何回にもたいてゐてはさめるであらうし、三回にたくとしまして一回に随分澤山たかねばなりませんから、従つてお鍋も中々大きなのが入用になつて來ませう。そんな大きなお鍋でたくの中々大變じやありませんか。それはそれとしまして、二斗からのお米を冬洗ひますのも随分つめたいじやありませんか。しかも毎日の事なんです。どうでせう。それでもやつて下さいませうか」

と念を押して見ました。

が結局、先生方の非常な元氣で、愈々實行する事に決定致しました、けれども考へて見ると炊事

場をつくる事、竈をきづくこと、お櫃を買ふ事、お鍋を買ふ事、柴屋を工夫すること……等々、中々澤山のお金が入りさうであります。其の金をどうするかと云ふ事は少々心がかりでありましたが、先生方があんなに元氣に言つて下さるのに、エ、まゝよ、どうにかなるだらうと、全く先生方にひつばられて、私も決心してしまひました。

こうして實行に入つたのでありましたが、前にも申しあげました通り、父兄方の大變な後援によつて、兎も角も現在の様な設備も出来ました。そして皆んなの非常な喜びの中に、日々を過してゐるやうな次第であります。

其の中こちらへでもお出になりましたら、是非々々御立寄り下さいませ。子供といつしよに御飯でも召し上つて頂きます。

(七)

いつてしたか私共の幼稚園のお式の事について

簡単にお話し申上げた事があるように存じますが、今度は特に今年のお正月のお式の事について申上げて見ます。お正月のお式の事と云ふよりも御式の準備と申上げた方がよろしいのでございます。

お式の時には、いつでも何かお土産を子供に與へる事に致して居ります。どんな物を與へますかと申しますと、おさまりのお饅頭の他に、小學校で申します手工的製作品であります。それは先生ですつかり拵へてやる事もあり、先生と子供との共同作品である事もあり、全く子供の作品である事もあります。

今年はどうな物をお土産にするかと云ふので、色々とは皆考へて見たのですけれども、とうとう自動車にすると云ふ事にさまりました。さて自動車を拵へ様と云ふ段になつて、一寸小さな行きつまりに出會ひました。と申しますのは、おかしな話ですが、私共の記憶は案外不明瞭だと云ふ事であ

ります。あの見馴れた自動車でさへ、さてとなると其の恰好なり、諸部分の構造なりについて實に不確實な知識しかありません。それでとう／＼主任の方々にお願ひして、自動車をよく見てそれから一つの模型をつくつて頂く事になりました。所が後で主任の方のお話しに、紙の裁方なり、曲げる角度なり、一々中々の工夫を要したと云ふ事でありました。

それで此の自動車(ボール紙製)は全く私共幼稚園の創作品であります。この玩具の自動車一つでも何ら他からの力をからずに、私共の考のみで生み出したと云ふ事は、言ひ知れぬ愉快を覺えます。

しかし特に私が先生方に感謝致したのは、其の製作に對する非常な熱心と、大變な努力とであります。實は豫想では一寸で出來ると割合簡単に考へてゐましたのです。所が實際は中々手のこ

んだものになりましたので、容易に仕事が運びません。勿論今度は子供に殆どさせられせん。それで先生方は冬期休業前から冬期休業の前半にかけて、一般の仕事をすましては、この製作に没頭されました。時には夜の九時までも幼稚園で仕事をせられ、家に歸れば十時にもなつてゐる事があつたやうです。殊にかねてから各自計畫もあつたであらう冬の休みを惜氣もなく、不平や不滿の片鱗だになく、それこそ美しく割愛されて、自ら選んだ仕事を果さんとする責任感と、子供を愛し幼稚園の名譽を思ふ至情とが、ゆかしくも美しくからみ合つて、そしてこの自動車の製作品が、満足に且つ十分に出來上りました。

一月一日のお式に参りました子供達に、これを與へました時の喜びやうは、どんなであつたと思ひになりますか。それは／＼非常なものであります。子供達が歸つてしまつてから、

「先生、もうそれは大變な喜びでございました」

「あんなに喜んでくれたら、骨折がひがあつたわ」と云ふ様な言葉が、非常な満足の表情と共に、

先生方の口からもられました。

私共はそれだけでよかつたのであります。其の時其の他に何の報ひも望むてはゐませんでした。

所が其の日も出て下すつた來賓の方々から、思ひがけなくも先生方の努力が認められ、何くれとおほめの言葉を受戴致しましたので、私共誰もの面上には、隠しきれぬ歡喜の光がありました。また其の時其の機會を利用して、平素の先生方の努力の幾分を説明する事の出來た私にも、人知れぬ喜びがありました。

今一つつけ加へたいのは、二重橋の大額面をつくつた事であります。そしてそれを一月一日に始めてかけて、遙拜を致した事であります。それから以來毎朝私共は此の前に集まりまして、身も心

も正しく遙拜致します。其の時のすがすがしい氣持ち——それは例様もなく心地よいものであります。有難いものであります。私共のこの態度を、そばで見て下さる人には、一種感銘をして頂けると自信致して居ります。

こうして皇室を尊び、國を愛する心の素地をつちかふ仕事の一つと致したいと存じます。幼児時代特有な宗教心の萌芽を育て、行く仕事の一つと致したいと存じます。

幼児教育と宗教教育の問題について、少し書いて見たいとも存じますが、これは日を更めて申し上げ、御批正を願ふ事に致します。

さてこの二重橋の大額面（一疊大）は誰れがかいたかと云ふことであります。決して澤山のお金を出して、専門の畫家に依頼して出來たものではありません。全く私共の手になつたのであります。それはこの休中に手技の方の主副の研究主任の方

が協力して、一生懸命になつて描き上げたものであります。私からこう申してはあかしうございですが、實際中々うまく出来てゐるのであります。

「私共のかいた此のつたないものの方へ、禮拜して頂いて、本當に恐縮です」

と、かゝれた先生は申して居ります。

けれども第一私共の其の繪に對する親しみが違ひます。自分達がかいたのだと思へば何だか嬉しいです。殊に子供は喜びました。

しかし私の感謝致しますのは、繪の出来ばへとか、子供が喜んだ等よりも、先生の其の尊い犠牲的奉仕の精神であります。それがいや／＼ながらやるとか、義務的に仕方なしにやるとか云ふのではなくて、幼稚園のために働く、子供の爲めに働くとか云ふ愉快な感情、美しい精神から出發して出来上つたものであります。其處には何の求める

所とてなく、只よい事をしたいと云ふ一つばいの心で爲されたのであります。それだけに其の仕事がありがたくて、私には涙がこぼれる思ひがするのであります。

(八)

二學期中頃から遊戲の研究發表と云ふ事を始めました。一ヶ月に一人づゝ研究發表し、それを皆が批評して、一つのよいお遊戲を拵へて行くのであります。お遊戲についても、古いものと、あんなものもうずっと前に流行したものよ、と言つてしまいたがる傾向はないか、又講習などで教はつたものでないと不安で、自ら子供の爲めによいものを生んでやると云ふ努力が一般に乏しいのではないか、などと考へて居りますが、そこで口廣い申し様でございませうけれども、この舉もこうした態度にあきたらない私共の、一つの小さな實行であります。

古人も「古きをたづねて新しきを知る」と申し

て居られますが、古いものの中にも實に捨てがたいのがあります。そんなのを見つけ出すのも仕事の一つです。又それらを改作するのも一つです。

それらからよいヒントを得るのも一つです。

講習!!新らしいもの!!のみを追つてゐる人には種切れがあるかも知りません。

けれども古きもの敢てしりぞけず、新らしきものむやみに追はず、眞に子供によいものを知り握つてゐる人にはさう云ふ事はないと思はれます。それで講習で習つたものでも此の研究發表會の飾にかけたものを用ひる様にして行くつもりでございます。

各種の遊戲書をあさつて、講習などで手をとつて教へて貰はないものの中から、よいものを發見して行くのも一つの仕事であります。

けれども一番大切な仕事は、全く私共の力で、

本當によいお遊戲を創作する事だと考へて居ります。

兎に角私共はこうした精進をつゞけて參るつもりでございます。やがて或は面白いものがまとめられるかも知りません。其の時にまた御高評をお願い致し度う存じます。

(九)

つまらぬ事を長々と書きつゞけて參りました。一まづこの邊で擱筆致します。今年是人氣辰の年とか世間で申して居りますが、私共も更らに勇氣ふるい辰の年と覺悟致しまして、一層よい仕事をしたいのだと考へて居ります。どうか今年も相變りませず御援助を賜り度、切に御願ひ申上ります。

(昭和三、一、二五)



行進遊戲について

戸倉ハル

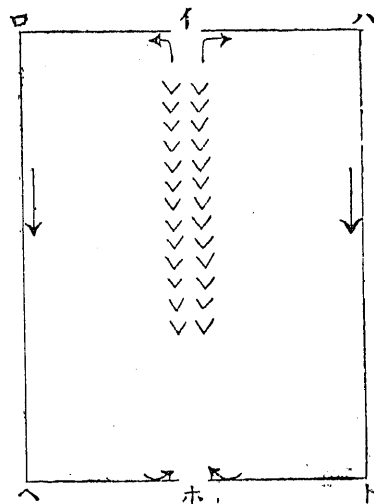
(五) 等分行進

準備

全兒童を一、(二)列縦隊に竝べ、方向を換へる處(ロ・ヘ・ハ・ト)に目標となるべきものをあてがふ。

方法第一

二列縦隊で行進し來り、(イ)に於て互に左右に分れて行進し、左側生は(ロ)、(ヘ)を経て(ホ)に進み、右側生は(ハ)(ト)を経て(ホ)に進み、(ホ)に於て二列縦隊となり(イ)に向つて行進する。
かくして二・三回繰返して行へばよい。



注意

- (1) 唱歌又は樂器の伴奏に合して行ふやう。
- (2) 左右側生歩幅、速歩に注意して(ホ)で出逢ふとき一緒になるやう。

(3) 二列のときは互に手を取るやう。

方法第二

一列縦隊で行進して(イ)に進み、第一番は左へ第二番は右へ、交互に方向を變へて行進し、奇數生は(ロ)(ヘ)を経て(ホ)に進み、偶數生は(ハ)(ト)を経てホに進み、(ホ)に於て奇數生は左側生、偶數生は右側生となつて二列で(イ)に向つて行進する。

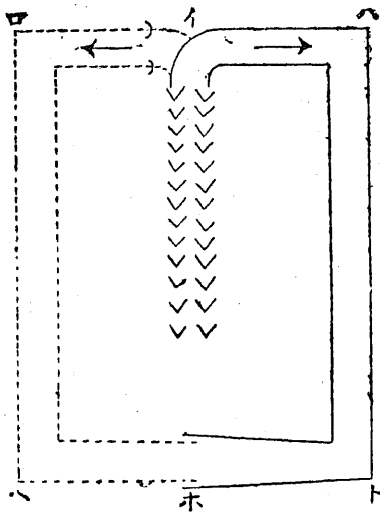
注意

第一の場合に同じ。

方法第三

先頭の第一伍は左へ向きを換へて(ロ)に進み、第二伍は右へ向きを換へて(ハ)に進み、第三伍は左へ、第四伍は右へ、順次かくして最後の伍に及ぼし、奇數伍は(ヘ)へ、偶數伍は(ト)へ進み互に(ホ)に向つて行進する間に偶數伍は列間を開き、奇數伍を通過させ、奇數伍は偶數伍の列

間を通つて(ト)(ハ)に進み、又偶數伍は(ヘ)(ロ)に進み、互に(イ)に向つて行進するうちに今度は奇數伍が列間を開き偶數伍を通過せしめ偶數伍は奇數伍の列間を通つて、(ハ)(ト)に進み、又奇數伍は(ロ)(ヘ)に進み、兩組(ホ)に於て相會し、奇數伍は左へ、偶數伍へ右へ向きを換へて(イ)に向ひて四列側面縦隊の行進をなし、第一伍は(イ)に至りて停止し、第二伍以下は適當の距離をとりて停止する。



方法第四

前の方法から行ふ場合

二列づゝ左右に分れる。即ち(イ)に於て左の二列は伍々左へ分れて、(ロ)(ヘ)に進み、右の二列は伍々右へ分れて、(ハ)(ト)に至り、兩組(ホ)に於て相會するやうになれば、左側の第一伍は、伍々左をなして中央に進み、次は右側の第一伍、次は左側の第二伍、次は右側の第二伍と順次二列となつて行進し、(イ)に至つて停止する。

方法第五

方法第四から行ふ場合

一列づゝ左右に分れる。即ち(イ)に於て左の列は左へ分れて(ロ)(ヘ)に至り、右の列は右へ分れて(ハ)(ト)に至り、兩組(ホ)に於て相會するに至れば、先づ左側の第一番は左へ折れて中央に進み、次は右側の第一番、次は左側の第二番

次は右列の第二番と順次一列となつて行進し、(イ)に至つて停止する。

注意

(1) 第二から第五までは續けて行ふことが出来るから、最初は第二と第三、次は第四と第五とを續け最後には第二から第五までを續けて行へ得るやう練習するをよしとす。

(六) 十字行進

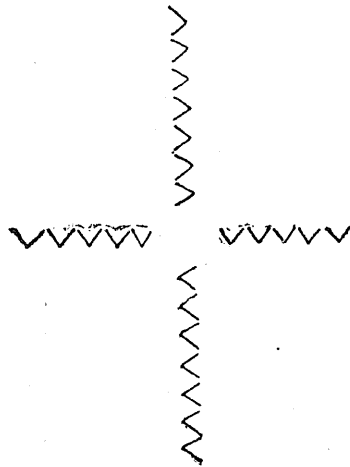
十字行進は配列の形、動作の性質などから、この名稱が出たもので、其の方法も種々ありますが、此處では最も簡單なものを解説することにいたします。

準備

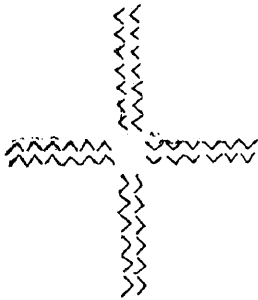
準備の隊形として次の三種あります。

(1) 全兒童を八等分し、正面八人の八列又は偶數を以てなる數個の横隊を作り、左右前後の間隔距離を各々片臂の長さとする。

(2) 全兒童を四等分し、次の如く一列の十字形に
竝ばせる。



(3) 全兒童を四等分して次の如く二列の十字形に
竝ばせる。



方法

(一) 八呼間

兩手を腰にとり（互に手を繋ぐ）軽く足踏する。

(二) 八呼間

互に隣生と手を連ね三步前進した後三步後退して元の位置にかへる。

(三) 八呼間

互に連手のまゝ七歩前進し最後に左向してとまる。

(四) 八呼間

一の動作をする。

(五) 八呼間

二の動作をする。

(六) 八呼間

三の動作をする。

(七) 八呼間

(一) 一の動作に同じ。

(八) 八呼間

(二) 二の動作に同じ。

(九) 九呼間

(三) 三の動作に同じ。

(二) 二呼間

(一) 一の動作を繰返す。

(二) 二呼間

(二) 二の動作を繰返す。

(三) 三呼間

(三) 三の動作を繰返す。

注意

(1) 唱歌又は樂器の伴奏に合して行ふを可とする。

(2) 熟練すれば以上の動作を左足から行つて右轉向をなし、更に右左と交互に連續して練習するを可とする。





蟹のお寺

童話

久門 嘉祐

光子さんは可愛い／＼お人形さんのやうなお嬢さんであります、此の光子さんのお家は山の麓の一軒家でお父さんとお母さんと光子さんと三人きりてありました、お父さんとお母さんは毎日朝早くからお辨當を持ち鍬をかついて野良に出ます、あとは光子さん一人て一日中お留守番をするのでございます、お父さんとお母さんが野良へ出るとみつ子さんはお坐敷からお庭から奇麗にお掃除を

してからお坐敷へ可愛いお机を出して繪本を見たり繪をかいたりしておとなしくお留守番をするのでございます。みつ子さんは一人ぼっちでもちつとも淋しくはないのです。それにはわけがあるのです。みつ子さんが初めてのお留守番の日のことであります、朝の間はそうでもなかつたのですが、おひるのごはんを一人てたべてから急に淋しくなり、だん／＼に淋しくて淋しくてたまらなくなりとう／＼オイ／＼泣き出しました。けれども一軒家でお隣りもないんですもの幾ら泣いても誰も來てくれる人はいないので、ほんとうに可哀

想てせう……。すると何處から來たのか一疋の子蟹がカサ／＼お坐敷へ匍ひ上り泣いて居る光子さんのお膝の上にのぼりました、光子さんは一寸は吃驚しましたが、可愛い子蟹ですもの、じつと見てゐますと子蟹はさもなかしいやうに光子さんのお膝の上でまるくなつて寝たり、又お膝からカサ／＼匍ひ下りて今度はお坐敷中をクル／＼匍ひまわつて見たり、又お膝へのつたり、あら何處かへ行つてしまつたと思ふと少時して又匍よつて來ました。見ると可愛いお花をはさみてはさんで來てゐます、それを光子さんにくれるのです、こうして色々として光子さんのご機嫌をとつてくれるのでございます。光子さんは子蟹があまりに可愛いので、もう淋しいことはすっかり忘れてしまつて面白くなりました。それから子蟹も光子さんがもう泣かなくなつたので大層喜びまして一日中一寸のまも光子さんの側をはなれず、ほんとうによ

いお友達になつてくれるのでございます。こんなことがあつてから子蟹は毎日／＼屹度來て面白く遊んでくれるんですもの、一人でお留守番をしてゐてもちつとも、淋しくはないのでございますすると光子さんのお家から南の方にあたつて、山を越え山を越えて行くと、山と山との間に大きな／＼瓢丹池があります、深く／＼水が青くなつてゐて、すごいやうなお池でございます、昔から此の瓢丹池に大蛇が住んでゐて、若し此のお池の側を通つた人が其の大蛇を見るとすぐ死ぬのでございます、又此の大蛇が時々其の村へ出て來て人を呑んだといふことでございます。ところが此の大蛇が何時のまにか此の光子さんを見付けました。あゝ奇麗な／＼お人形さんのやうなあのお嬢さんを呑んでやりたいと思ふと、矢も楯もたらずお池をぬけ出して光子さんのお家へ來ました。すると驚いたてはございませんか、大蛇の一番き

らひな、こわい／＼蟹が光子さんの側にちつとつ
いて居るてはありませんか、大蛇は吃驚仰天青く
なつて一目散にお池へ逃げて歸りました。けれど
もあしたになると、もう其のこわかつたことを忘
れて夢中になつて光子さんを呑みに行きますと、
矢張蟹がついて居るものですから又青くなつて逃
げて歸りました。毎日／＼光子さんを呑まふとつ
けねらひますが、いつても／＼こわい蟹ににらま
れるものですから、ぶる／＼振へながら逃げて歸
るのでした。すると大蛇はイヤこれはいかんこの
なりてはとても駄目じやと色々考へた末に、大
蛇は眞白髪の綺麗な神様のやうなお爺さんに化け
ました。そして自分の姿をお池の水に寫して見て、
うゝこれならば大丈夫蟹に見付けられることはな
いとほく／＼喜び、左手には綺麗な花を持ち右手
に杖をついて道を急いで光子さんのお家へ行きつ
か／＼お坐敷へはいりました。そして勢一つばい

の優しい聲で、あゝ光子さんそこにあてゝあつた
かわしも安心をした、とだん／＼光子さんの側へ
よつてこようとしてゐます、光子さんはついに見
たこともないお爺さんが不意にやつて來たのです
もの吃驚して、アレーと逃げ出さうとしてゐます、
蟹はこいつあやしいぜと目引もせずお爺さんをに
らんでゐました、するとお爺さん、あゝこれ／＼
光子さん逃げなくてもよい、私は決してこわいも
のではないのじや、此の山の女神様のお使の者じ
や、あなたをお迎に來たのじや、と、こういつて居
る間に蟹は何時のまにか何處かへ行つてゐなくな
つて居ります、お爺さんは此時ぞと元の大蛇の姿
になり光子さんに飛びかゝるふとしました、光子
さんアレツ……と言つたまゝ氣を失つてその場に
倒れてしまひました、此の時分どこかへ行つてし
まつた子蟹が何處からか仲間を千も萬も數知れぬ
程の蟹がお坐敷の八方から匍ひ上つて今光子さん

を呑まふとする大蛇に一度に飛びつき頭でも顔でも手でも足でも何處でも處かまわず、がちり／＼とはさみつき攻めて／＼攻め立てました。大蛇はたつた一疋の可愛い子蟹でさへこわくて／＼青くなつて逃げて歸つた位でせう、それに大きな蟹が千も萬もて攻めかけるんですもの膽をつぶしました、けれども大蛇も一生懸命戦ひましたが大勢の蟹にはとてもかなひません、とう／＼そこにぱつたりと大きな音をさせて倒れてしまひました。すると氣を失つて倒れてゐた光子さんは、今の物音にやうやく氣がついて起き上つて見ますと、これは又驚きました目の前に大きな大蛇が倒れて居ります、それに蟹も幾疋とも知れず死んで居るのでございます。それから悲しいことに光子さんがいつも可愛がつてゐた子蟹も皆と一しよに死んで居るのでございます。光子さん一目見て只々悲しくて涙をぼろ／＼こぼしてゐました。すると一疋の

蟹が光子さんの前に來てお嬢さんお怪我がなくてよろしうございました。子蟹始め私共は皆觀音さまのお使のものでございます。實はあなたをお助けするため先づ子蟹をあなたにつけてあつたのでございます。すると今大蛇が來てお嬢さんをのんでしまふとして居るといふ子蟹の報らせに、こうして皆でまいり、御覽の通り大蛇を退治しましたもう御安心なさいませ……ではさようならと言ふたかと思ふと、これは又どうしたことが倒れて居つた大蛇の姿も見えなければ、今迄數知れん程澤山にゐた蟹も一疋もゐません。只残つて居るのは大蛇と戦つて死んだ蟹ばかりです。光子さんは額を地にすりつけて幾度も／＼拜みました……そして子蟹始め死んで居る蟹を叮嚀に葬つてそこへお寺を建てましたといふお話。あしまひ――

鶯 と 龜

水谷 年惠

ホーホケキヨ、ホーホケキヨ、お池の岸の梅の木
の枝で、鶯が美しい聲で歌ひました。お池の中
の龜が、

「何ていい聲だらう。」

と感心して、水の中から頭を出しました。

ホーホケキヨ、ホーホケキヨ、又鶯がよい聲で

歌ふと、龜はたまりかねて、

「鶯さん、鶯さん、あなたはいいお聲ですね。」

と聲をかけました。鶯は下の方を見下して、

「おや、龜さん、今日は、いいお天氣だから、歌
を歌つてゐるのですよ。あなたも日向へ出ていら
つしやいな。」

龜は岸へ這上つて、

「鶯さん、高い所へ上つてゐたら、いい氣持でせ
うね。」

「いい氣持ですよ。方々が見えましてね、ひかふ
の方にお山があるんですよ、こつちには野原があ
るんです。お山では木の芽が出ましたよ、野原ぢ
やあ草が生えましたよ。」

龜は自分も高い所へ上つて、方々が眺めなくな
りました。

「鶯さん私も木の上へ上つて見たいね、何とかし
て上げませんか。」

「さうね、上れるかも知れませんが、一寸上つて
御覧なさい。」

龜は梅の木へ登らうと思つて、根元から這上ら
うとしましたが、ちつとも登れません。それでも
龜は一生懸命で、うん／＼言ひながら上らうとし
てゐます。鶯は枝の上から、

「しつかり、しつかり。」

と掛聲をかけて居ります。梅の木の上を、一羽の鳥が、

「アホラー、アホラー」

と言つて飛んで行きました。

大空に輪を描いて居たトンビが、高い聲で、

「ビー、ヒヨロ、ヒヨロ、ヒヨロ、ヒヨロ。」

と鳴きました。

其の時、梅の木の下を、

「モウウ。」

と鳴いて牛が通りかかりました。鶯はバツと飛立つて、何處かへ飛んで行つてしまひました。

龜は大あはてにあはてて、お池の中へ、ドブンと飛込んで、もう頭を出しませんでしたとさ。

ボン太郎の石ころ

ボン太郎が山へ行つて、薪を切つて居ました。お晝になつたので、お辨當を食べようと思つて、

お家から持つて來た握り飯を食べかけました。すると、ボン太郎の側を一人の旅人が通りかかりました。其の旅人は大變おなががすいてゐたので、よろ／＼してゐました。

それを見たボン太郎は、可愛想だなあと思つて「もし、もし、あなたはおなががすいて居るのでせう。さあ此の握り飯を一つお上りなさい。」と言つて、握り飯を一つ差出しました。旅人は喜んで、

「御親切に有難う。それでは頂きます。」

と言つて、うまさうに食べました。ボン太郎は自分も嬉しくなつて、

「さあ、もう一つどうです。」

といつて、又一つ上げました。あと一つ残つてゐましたが、ボン太郎はそれも旅人にやつてしまひました。それでボン太郎は一つも食べませんでした。

旅人は握り飯を食べて、大層元氣づきました。そしてボン太郎に何遍もお禮を云つてから、袂の中から石ころを一つ取出して、

「何もありませんから、お禮の印に此の石ころを差上げませう。どうぞお取り下さい。」

と申しました。ボン太郎はお禮なぞいらなと思ひましたが、旅人が折角呉れるのですから、其の石ころを貰ひました。

旅人が行つてしまつてから、ボン太郎はおなかのすいて居るのを我慢して、夕方まで薪を切りました。ボン太郎は仕事をしまつて、お家へ歸らうと、山路を急いで來ると、横の方で、

「ウオー。」

といふ恐しい聲がしました。ふと其の方を見ると一匹の狼が眼を光らせて、ボン太郎の方へ近寄つて來ます。ボン太郎は驚いて、思はずさつき旅人から貰つた石ころを懷から出して、狼の頭を目がけて、ボンと投げつけました。狙ひがあたつて、狼はコロリと倒れて、死んでしまひました。ボン太郎は大喜びで其の石ころを拾つて懷に入れ、狼の死骸を肩に擔いて歩きしました。

すると、今度は頭の上で、バサリ、バサリといふ大きな羽ばたきの音がしました。ふと見上げる

と、恐しい鷲が、爪を擴げてボン太郎に攫みかゝつて來ます。ボン太郎は吃驚して、すぐに石ころを出して、鷲の眼玉目がけて、ボンと打ちつけました。すると鷲はバタリと地面へ落ちて、すぐ死んでしまひました。ボン太郎は大喜びで石ころは懷の中へ入れ、鷲の死骸は狼と一緒にして、擔いで行く事にしました。

少し行くと、眼の前へ眞黒なものが、ニユツと立ちました。オヤツと思つて、よく見ると大きな熊が後足で立上つて、兩方の前足をつき出して、ボン太郎に打ちかかつて來ます。ボン太郎は熊の腹を目がけて、さつきの石ころを力一ぱい投げつけました。熊はドーンと倒れてダーウと死んでしまひました。

ボン太郎は飛上つて喜びました。ボン太郎は石ころを懷に入れて、狼と鷲と熊とを肩に擔いてお家へ歸りました。

お父さんやお母さんは、ボン太郎が強い獸や鳥を退治したので、大層喜んで、ボン太郎に澤山の御馳走を拵へて下さいました。

お菓子の汽車

西條八十 歌
高澤 隆 曲



1. ガッ タン コッ コ ガッ タン コ お く わ し の
2. ガッ タン コッ コ ガッ タン コ お く わ し の
3. ガッ タン コッ コ ガッ タン コ お く わ し の



き し ゃ が は し り ま す
き し ゃ が い そ き ま す
き し ゃ が ふ ぶ な ら し



お か ま は ま ー る い と う ま ん ち の う
な ー が い え ん と つ あ る へ い た ふ
ゾ ロ ゾ ロ は ー い る ト ン ネ ル は



く ー ろ い レ ー ル は あ め ん ほ う
つ な が る は こ は チョ コ レ イ ト
ぱ つ く り あ い た い ぬ の く ち

お菓子汽車

土川五郎作

六二

二重圓形になり豫め奇偶兩生を作り四人（後列共）一組となる様に準備す。

一、がつたんこつこ……全體右向きをなし兩手を前に出し掌を下にす、左足一步前に右つま先にて床を打つ。

がつたんこ……右足一步前に左つま先にて床を打つ。

お菓子の汽車が……初めの如く左足一步前、右つま先にて床を打つ、次に右足一步前へ左つま先にて床を打つ。

走……急速に兩脇を引き右足をあげ、直ちに兩手を伸ばすと共に右膝を屈したるまゝ強く前に下ろす、此の時上體は前に屈す。

りま……右足をあげ兩脇を引く。

す……「走」と同じく右足を強く床に下ろし兩手を伸す。

おかまは……伸ばしたる兩手を握り右足を左足に引きつけ兩脇を引く。

まーるい……兩手を少しく上へ持ちあげて又前へ伸ばし、更に兩脇を引く。

とうまんぢゆう……兩拳を開き兩手を兩側より上へあげ丸くす。此の時内側生と外側生と相對す

くろいれーるは……内生は内生のみにて手を繋ぎ外生は外生のみ手をつなぎ左方へ三步上體を左へ傾く（内圓外圓が行き違ふ）

あめんぼう……右へ三步上體を右へ傾く（内外生舊の位置に對す）

二、がつたんこつこがつたんこ……前に同じ。

お菓子汽車が……前に同じ。

いそぎます……兩手を伸ばしたるまゝ少しく體をかがめて小足にて急速に走り「す」にて左足にて強く床を打ちて體を十分に伸ばす。

長い……右手を高くあげ。

煙突……左手を高くあげ。

あるへい糖……廻はつて内外生相對す。

つながる……四人連手（豫め内外二名づゝ仲間を定めあく）し左へバランス一回。

箱は……右へバランス一回。

チヨコレート……二歩中へ進み連手のまゝ手を上より外方へ開く上體を後ろに屈して上を見る。

三、がつたんこつこ……お菓子汽車が……前に

同じ。

笛なら……兩指先をまとめて胸に上り直ちに左

右上方へ開く時兩手を開き、又直ちに胸に取る。

し……再び兩手を開く時内外生相對す。

ゾロゾロはひる……奇數の前後列兩手を取りト

ンネルを作り偶生前後列はトンネルをくぐりて兩手をつなぎトンネルを作る。

トンネルは……奇生は偶生のトンネル下をくぐる。

ぱつくり……全生一跳躍して内方向き左足を

出し左掌を上左手を左足に添へ右掌にて打つ。

あいた……右手を後上方にあげ顔は左上を向く

いぬのく……一跳躍右足を出し右手を足に添ふて掌を上にし左掌にて打つ。

ち……左手を左後上方にあけ右上を見る。

四月の幼児生活

東京府女師附屬幼稚園 ト 部 た み

のどかな四月がめぐつてまゐりました。

生長そのものゝ様な活氣に満ちた幼児は「さあ大きい組になつた。」といはんばかりの元氣で遊びまはつて居ります。一種の喜びと又急に多勞の人中に出た何ともつかない不安とをまぜた心持の新入幼児はお附添に離れかねて立つてゐます。

只さへ狭い園に多勢の大人が立ち交つて居りますと、子供も私共も何とはなしに壓迫に似た感じに包まれるのが四月初めの常でございます。そしてどうか一日も早く子供ばかりの樂園に、子供同志の世界にしたいと願ふのが新入幼児に對する最初の感じて御座います。

四月初めの取扱ひに就て極く簡単に箇條だけを

あげる事と致します。従て抽象的、概括的な表はし方になりますのを御承知下さい。

一、第一に昨日迄の家庭生活と、今日からの幼稚園生活との間は出来るだけなだらかに、急な變化を感じしめない様力める事。つまり大家庭としての幼稚園の楽しさを感じしめる事。

其のため出来る事なら幼児の入園前の身心に關する生活調査を家庭に問ひよく各兒を知る事に つとめておく事。

絶えず幼児の上に細密周到の注意を配る事。

保育室、遊戲室、其他凡て環境の整理に一層心をもちふる事。

初めから團體的集團的の扱ひをとる事なく、最

も幼児の親しんでゐる材料により、最も親しみある家庭的方法と態度を以て迎へる事。つまり唱歌、遊戲等はよく幼児の今迄に好んでゐたものを知つて歌ひ或はひいてきかせること。ことに幼児の魂とくけあふ事の出来る唯一の恩物である「おはなし」をよくえらんで用意しておく事。是に於て幼児に親しみある談話・唱歌・遊戲等の價值を熟々味ふ事が出来るので御座います附添人から無理に離さうとする態度を現はさず何時とはなしに幼稚園生活の面白さに引き込まれる様にはかる事。

幼稚園生活に馴れさせる事はつまり保姆や友達に馴れさせる事でありますが、一般に此の時代の幼児の特質として主我的で個人的で人と遊ぶ事が出来にくいいため、特に友達を選んでやり是と親しむ事を知らせ漸次に相互生活の楽しさを味ふ境地に導くこと。

二、特に身心状態の觀察を絶えず注意する事。

是の方面の家庭の状態をよく調査し、(例へば起床・就床・食事或は便通に關する事等)身體發育状態に留意し、精神方面に就ても出来る限り幼兒研究の立場からの智識を用意して是を實際に照しつゝ眞に幼兒生活の眞相を見つめる事につとめたき事。

三、新しい生活であると同時に凡ての習慣態度を作る出發點ともみられる時であり、特に外界に對して奇異の眼をみはり、からだ全體を以て外界の凡てを吸収して生活内容を豊かにしようとするかの様にみられる此の時機を、無意義に無氣力におはらせる如き事のない様用意ありたき事。

四、幼兒の個人個人をよく知る事即ち個性觀察については、出来る限り細密に最も正しく幸福に導く事の出来る様つとめる事。

なほ此外家庭との聯絡といふよりは眞の親しみを以て、凡ての方針等は家庭の理解を充分にし保姆と母親とは全く一つになつて此の最切の教育にとりかゝらねばならないと存じます。何といつてもつまる所愛と熱であると信じます。

生活記録は前にも申した様に只した事の項目だ

幼一の組（新入園組）

○幼稚園生活の楽しさ。

色々の遊び

遊具の使ひ方

お友達遊び

四月生れの誕生會

家畜小鳥小魚の世話

等。

○自然界の新生の悦び。

お花見、摘み草

木々の芽ぐみ

庭園、花壇作り、種子まき

戸外遊び

蟲類採集

養蠶

等。

幼二の組（年長組）

○同上

二の組になつた悦び

新入のお友達の歡迎

等。

○同上

なほ年長組は項目に於ては全く同じで内容形式に一層充實進展したものが現はれるのであるから其他は特に記す事を略す。

けを書き出したもので、その間の保育の生命の流れのいきかひは表はされませんが續いて記する事に致します。幼二組と申しますのは、九月以來記して來ました幼一組の引續き進級したもので御座います。

幼一組とは新に入園した幼兒の組で御座います

四月の主な材料

幼一 四月の生活

曜 週	第 一	第 二	第 三
1	<p>入園式</p> <p>年長組の遊戯をみる</p> <p>或は一緒に遊ぶ</p>	<p>自由遊び</p> <p>（砂場、辻り臺、ブランコ、かごめ、鬼ごっこ等）</p> <p>遊戯（年長組のするのをみる。漸次に望む者は一緒に入る）</p> <p>談話（桃太郎）</p> <p>唱歌（桃太郎）</p> <p>唱歌（幼児の知つて居るしきもの）</p> <p>園内案内</p>	<p>園内巡覽（各室、廊下、出入口、便所等）</p> <p>自由遊び（積木、繪本、遊動木、縄つき、縄なげ、シーソー、廻施機）</p> <p>桃太郎（談話）</p> <p>唱歌遊戯（桃太郎さん）其他</p> <p>幼児の知つてゐるもの、雀、鳩、お手手つないで、雀の學校等）</p>
2	<p>自由あそび</p> <p>芽生さがし</p> <p>土いぢり、みづ、かたつむり等をさがしてみる</p> <p>砂場、辻り臺</p> <p>びよん太郎（談話・唱歌・遊戯）</p> <p>自由遊（黒板畫）</p>	<p>自由遊び</p> <p>（同前）</p> <p>（どん／＼、橋、影ふみ等）</p> <p>びよん太郎（談話）</p> <p>唱歌、遊戯（びよん太郎其他）</p> <p>自由遊び（同前）</p> <p>（此の間に數觀念、或は色、文字等の調査）</p>	<p>自由遊び（同前）</p> <p>繪（各兒の畫帳、クレオンにつき一通り説明）</p> <p>觀察（小鳥、鶏、兎、金魚等の世話）</p> <p>傳通院行き（園外保育）</p>
3	<p>自由遊び（同前）</p> <p>日曜日の話（話談）</p> <p>保母及び幼兒の自由發表</p> <p>散步（本校及寄宿舎の庭）</p> <p>唱歌遊戯（同前）</p> <p>本日希望にまかせ辨當持参したきものは二の組と一緒に食べしむ。</p> <p>（今年、用意、注意等）</p>	<p>自由遊び</p> <p>（花やさんごっこ、おま／＼ごと、辻り臺、ブランコ其他）</p> <p>花壇作り</p> <p>（土おこし、土ふるひ、石ひろひ）</p> <p>唱歌遊戯（同前）</p>	<p>自由遊び</p> <p>花壇作りつゞき</p> <p>自由畫</p> <p>（クレオンの色合せ、品の物の名稱しらべ）</p> <p>談話（お日様）</p> <p>唱歌（あがるあがるお日様）</p>
4	<p>自由遊び</p> <p>日曜の話（保母幼兒自由發表）</p> <p>談話（ひばり）</p> <p>唱歌、遊戯（ひばりは歌ひ）</p> <p>色合せ遊び（色カード）</p> <p>自由遊び</p> <p>明日の誕生會のおはなし、</p>	<p>自由畫又は手技。</p> <p>誕生會仕度。</p> <p>開會</p> <p>（祝ひの挨拶、答禮、唱歌）</p> <p>（本讀、談話遊、戲等の賞演）</p> <p>自由遊び</p>	<p>自由遊び</p> <p>傳通院行き（園外保育）</p> <p>鳩、櫻坊、鶏の觀察</p> <p>談話（鳩）</p> <p>唱歌（鳩ぼつぽ）</p> <p>手技 鳩の塗繪又は折紙遊戯（鳩、其他同前）</p>

曜 週	第 四	第 五	第 六
1	<p>花子さんと輩(談話) お庭の觀察 櫻、桃、等の舊本草花の芽 遊戯〔同前、スキップ練習 尙年長組と混りて遊ぶ〕 自由遊び(同前)</p>	<p>自由遊び(同前) 天候、飼育、動物、草木の芽等の觀察 遊戯〔同前 結んでひらいて等</p>	<p>兎とお猿(談話) 室内の觀察 (火鉢、炭火、湯氣、時計、額等) 遊戯(同前)</p>
2	<p>唱歌遊戯(同前練習及牛若丸) 牛若丸(談話、極く簡単に) 著書器をきく 自由遊び(同前、小鳥、鶏、其の他の世話) (數、文字等の觀念調査)</p>	<p>お花見(園内又は園外附近) 此の間に自然に花の觀察も行はる 自由畫 帳畫、筆箱、鉛筆、クレオ ン等の名稱、使用法</p>	<p>自由遊び 〔同前及マラソン、飛びくら等〕 春子さんの花(談話) 唱歌遊戯 (びよん太郎)</p>
3	<p>植物園行き 櫻、桃、椿、楓の花等、たんぽぽ、水仙、ヒヤシンス チウリツブ、櫻草 猿鳩、鸚鵡、鶯、鯉、金魚、蛙の卵及おたまじやくし等の觀察 (五分位の大)</p>	<p>花壇作り(同上及種子まき) コスモス、ベルサム、ヒマハリ、スキートビー、キンセンクラ等 三郎さんの玩具(談話) 唱歌遊戯 (前の練習及お日様)</p>	<p>園外散歩 摘草、虫類採集、花びらさし 唱歌遊戯 〔桃太郎、結んで開いて、びよん太郎、お日様、其の他知つてゐるもの〕 身體検査</p>
4	<p>花壇の手入(朝顔、夕がほ、百日草、はけいとう等、ダリヤ、カンナ、の根の枯付、 兎、小鳥、金魚等の世話 色合せ遊び、同前) 日かくしさがし(音色、又は高低より人をあてる遊び) 他唱歌(ひばりはうたひ、鳩其</p>	<p>自由遊び 〔同前及おまゝごと、汽車遊び兵隊ごっこ 散步 梨の花、櫻ん坊、百合、三色すみれ、菜の花等 香と聲のきゝわけ遊び 花壇、飼育動物の手入 唱歌遊戯(同前) 鳩の練習</p>	<p>お庭觀察 あずま菊、はま菊、さくらん坊、空、雲行等 絹糸草のひえまき 自由畫及手技 唱歌遊戯(練習) 日曜についての話(談話)</p>

幼二 四月の生活

曜 週	第 一	第 二	第 三
1	<p>注意―幼一組細目を参照せられたし</p> <p>始業式</p> <p>入園児の歓迎(尋一と一緒)</p> <p>遊戯をして見せる、或は入園児の手をとつて一緒にスキップ等。</p>	<p>自由遊び</p> <p>砂上上臺、ブランコ、かごめ、鬼ごつこ等によつて入園児の相手となつて遊ぶ。</p> <p>遊戯(前日同様)</p> <p>談話(この組になつた悦びについて)</p> <p>唱歌(幼一組と合同)</p> <p>園内案内(幼一組の案内をする)</p>	<p>園内巡覧(幼一組の案内)</p> <p>自由遊び</p> <p>(幼一組の相手をする)</p> <p>談話唱歌遊戯</p> <p>(幼一幼二合同)</p>
2	<p>芽生及新芽さがし</p> <p>土いちり、みゝず、かたつむり等見る。</p> <p>(幼一組と交つて観察態度を指導す)</p> <p>お話遊び(赤づきん)</p> <p>お話の劇化(劇化の準備として唱歌、手枝、畫が出る。</p>	<p>自由遊び</p> <p>同前及石けり、じやんけん飛び、兵隊遊び</p> <p>石拾ひ遊び(本校々庭)</p> <p>唱歌遊戯</p> <p>びよん太郎及其他(練習)</p> <p>鳩、お手々つないで、雀の學校</p>	<p>自由遊び</p> <p>此間他は自由遊び及繪本讀み自由畫(此間に諸調査)</p> <p>自由畫(各自の畫帳に)</p> <p>唱歌遊戯(同前)</p> <p>園外散歩</p> <p>江戸川近、小舟、橋、電車、草花屋等觀察</p>
3	<p>自由遊び(同前)</p> <p>談話及繪(日曜日の話)</p> <p>保姆及幼兒の自由發表</p> <p>唱歌遊戯(練習)</p> <p>(自由遊び中に數、文字、色其他の觀念調査)</p>	<p>自由遊び(同前)</p> <p>同前、軍隊ごっこ(陸軍、海軍)及積木、ボール投げ</p> <p>花壇作り</p> <p>土ふり</p> <p>幼一と合同土おこし、</p> <p>談話(新授、私の花壇)</p> <p>唱歌(新授、私の花壇)及練習</p>	<p>花壇作り</p> <p>(前につゞき土ならし等)</p> <p>談話(モナチアトマナチア)</p> <p>自由畫</p> <p>唱歌遊戯</p> <p>(前の練習、幼一と共に)</p> <p>自由遊び(同前)</p>
4	<p>談話(日曜日の話)</p> <p>保姆及幼兒の自由發表</p> <p>自由畫(日曜の生活に就て)</p> <p>魚つり遊び(幼兒の知つてある魚の名を上げさせ、各幼兒は自由に魚をつくる、ひご及畫用紙、針金クレオン等を用ひて作つた魚を池に放つ、池は積木にて作る。</p> <p>唱歌遊戯(お池のひごひ)</p> <p>明日の誕生會の話及仕度</p>	<p>自由遊び</p> <p>(此の間に幼兒誕生會の仕度)</p> <p>誕生會開會</p> <p>幼一組細目参照せられたし</p> <p>自由遊び(目前)</p>	<p>花壇手入</p> <p>種子まき(朝顔、夕がほ百日草、はげいと等)</p> <p>球根の植付(ダリヤ、カレンナ)</p> <p>飼育(動物のお話)</p> <p>椅子とり競争</p> <p>音色又は音の高低により動作をする</p> <p>唱歌遊戯(練習)</p>

曜 週	第 四	第 五	第 六
1	<p>談話(お友達)</p> <p>お庭の観察 <small>幼一組に同じ、但し観察範囲をひろめ、やゝ細くなる</small></p> <p>遊戯 <small>(同前)スキップ練習</small> <small>(尚一)の組の指導に當る</small></p> <p>自由遊び(幼一の相手)</p>	<p>自由遊び(同前)</p> <p>観察(飼育動物、草木の芽) <small>(観察内容を深める)</small></p> <p>遊戯(同前) <small>結んでひらいて</small> <small>(幼一組合同)</small></p> <p>お話あそび <small>(音と聲、桃太郎)</small></p>	<p>自由遊び(同前)</p> <p>談話(赤頭巾)</p> <p>繪(お話の内容表現其他自由)</p> <p>遊戯(同前)</p>
2	<p>自由遊び(同前)</p> <p>お話あそび <small>赤づきん、熊のお家、其他</small></p> <p>繪 <small>(赤づきんの内容表現)</small> <small>(お話遊びについて)</small> <small>苦音器をきく(幼一合併)</small></p> <p>自由遊び <small>兎、小鳥、鶴観察</small></p>	<p>お花見(幼一と一緒に)</p> <p><small>(園内又は園外附近此間に花の観察も行はる)</small></p> <p>自由遊び <small>(観察の發表及自由遊び)</small></p> <p>自由遊び(同前)</p>	<p>自由遊び(同前)</p> <p><small>(幼一と共にマラソン、ジャムブ、リレー等切紙及折紙(オルガン、ピアノ、机、算盤等室内裝飾)</small></p> <p><small>(幼兒の製作せるものにて室内を飾る)</small></p> <p>遊戯、唱歌(幼一と合同)</p>
3	<p>植物園行と観察遊事項、其他幼一に同じ。</p> <p><small>(幼一組細目参照)</small></p>	<p>花壇作り(同上種子まき)</p> <p>談話(ヘンゼルとグレーテル)</p> <p>畫、切紙其他に談話の内容表現</p> <p>(カード遊び、ボール遊び)</p> <p>唱歌遊戯(前の練習)</p>	<p>園外散歩</p> <p>摘草、虫類採集、花びらさし</p> <p>首飾り、腕飾り、室内飾り</p> <p>身體検査</p> <p>唱歌、遊戯(練習)</p>
4	<p>自由遊び</p> <p>談話(猫と鼠)</p> <p>自由遊び</p> <p>粘土(自由製作)</p> <p>唱歌、遊戯(猫、鼠、れんげの花其他)</p> <p>樂隊 <small>(オモチャノマアチ、雀の學校其他)</small></p>	<p>園外散歩</p> <p><small>(銀杏寺及傳道院附近、櫻坊、百合、銀杏の新芽等を見る)</small></p> <p>花壇、飼育物の手入</p> <p>自由遊び <small>(同前及びまゝごと、兵隊ごっこ指導する)</small></p>	<p>自由遊び</p> <p><small>(同前、なはとび、綱引、かけふみ、電車ごっこ。あづま菊、はま菊、さくらんぼ、空、雲行等、ひえまき)</small></p> <p>観察</p> <p>自由遊び及手技</p> <p>談話(日曜に遊ぶ話)</p> <p>唱歌遊戯(練習)</p>

定規文注

告 稟

一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歡迎いたします。

一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字下げること。また句讀點は一字あけること。

一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に

本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい

居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申込下さい。

一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金（郵便共）で願ひます。（郵便代用の場合には總て一割増）

一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきて御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に『前金切』の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

價 定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年分貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和三年三月十日印刷

昭和三年三月十五日發行

幼兒の教育 第二十八卷第三號

編輯兼發行所 堀 七 藏
東京府豊多摩郡戸塚町大字戸塚五七五

不 許 複 製
禁 轉 載

印刷者 小長谷 勝之助
東京市牛込區西五軒町五二番地
印刷所 行政學會印刷所

發 行 所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六六番

告 廣

特等面一頁 金參拾圓	二等面一頁 金貳拾圓
一等面一頁 金貳拾五圓	一頁以下御斷

神田區南甲賀町八品田奥松に御申込下さい

覽台下殿族皇號每誌本賜

誌雜習學大

編輯會究研導指習學

東京兩高等師範學校
廣島高等師範學校
奈良女子高等師範學校
府立中學校・女學校

各教官諸
先生が毎
號執筆さ
れます。

——(毎月一回一日發行)——
趣味と學習を兼ねた雜誌!
あなたを優等生にする雜誌!
全國小學生間大評判雜誌!

男子幼稚園

◎特に四歳以上の男生の友として編まれたもの、初めて理想の學習雜誌を見たところ好評さる(定價廿錢)

男子一年生

◎一年生の人は全部お読み下さい、學校といふものゝ理解させ好にさせ天分を助長さす良雜誌(定價廿五錢)

男子二年生

◎學課に彩色繪に讀物に光彩臨。時間の經つのも忘れる。本誌讀者は全優等生。(定價廿五錢)

男子五年生

◎初等教育界の權威者が全部執筆せる好雜誌他にありや、難解の學課も直ちに氷解さる。(定價四十錢)

女子幼稚園

◎男子幼稚園と同じく四歳以上の女生の友、切抜貼込理科算術童話童話繪の繪古等兒童の好同伴(定價廿錢)

女子一年生

◎群小雜誌と選を異にし飽く迄も學習に主眼を置き自然に成績を優良ならしめる兒童の友(定價廿五錢)

女子四年生

◎その人を見んとせばその讀む本を見よ一本誌の如き天下一の良雜誌の讀者は模範生と仰がる(定價廿五錢)

女子六年生

◎引續き本誌を愛讀せば中學校女學校の入學試験も少しも恐い事はない、諸君の救ひの神(定價四十錢)

發行所

東京市神田區小學校館

振替

東京大阪仙臺
一五〇二
七〇五八

抒情詩集

いとしまさばくろ



サトウ・ハチロー 著 吉邨二郎 装幀

四六判上質紙二百十餘頁朱子製本天金極美装 最新刊
定價 壹圓六十錢 送料 十二錢

私は、ほんとにやさしい喜びを持つて皆さんにこの詩集を捧げます。
爪色の雨以後の多くの少女雑誌、婦人雑誌へ発表したものは、みなこの本のなかにあります。その他折にふれ私のやさしい心をうつものがあつたとき書きとめて置いた短唱もすべて入れています。

いとしき人に

いとしき泣きばくろありき

まつ毛をつたふみぞれに

いつも黒くぬれそぼちたりき

私は、この本が一冊でも多く買れて、この本を読んだ人の心のやさしさを育て、くれれば幸ひです。心やさしき人に私は「いとしきなきばくろ」を捧ぐ。美しき人にはこの詩集を捧げます。

少女讀物白眉

サトウ・ハチロー 譯 非水装幀
世界名詩物語

四六判二百數十頁極美装
定價壹圓六十錢 送料十二錢

エクトル・マロー 原著 非水装幀
片岡鐵兵氏譯
あゝ故郷

四六判二百數十頁極美装
定價壹圓六十錢 送料十二錢

文洋社

振替東京一五〇九番
電話牛込四三〇番

東京市牛込區
西五軒三〇四番

今年から入園の日

日本幼稚園協會編

●幼兒用ヌリエ

第一卷 定價 各三十錢

幼稚園作業の一つとして「ヌリエ」の價値は更めて説明を要しません。ただ其の材料の選擇には多くの考慮を要することです。東京女高師附屬幼稚園で長い間試みた材料の中から幼兒の興味にあはせて配列編纂せられた此畫帖は、このまゝ幼兒用として與へらるゝに便利と思ふのであります。普く御使用を希望します。

東京女高師附屬幼稚園御考案

●お道具箱

定價 大壹圓廿錢 小七十錢

小學校の入學當時に學用品を買はせると同じに入園當時に必要なお道具箱を未だの御園は今年から御買はせ下さい。

●自由畫帖

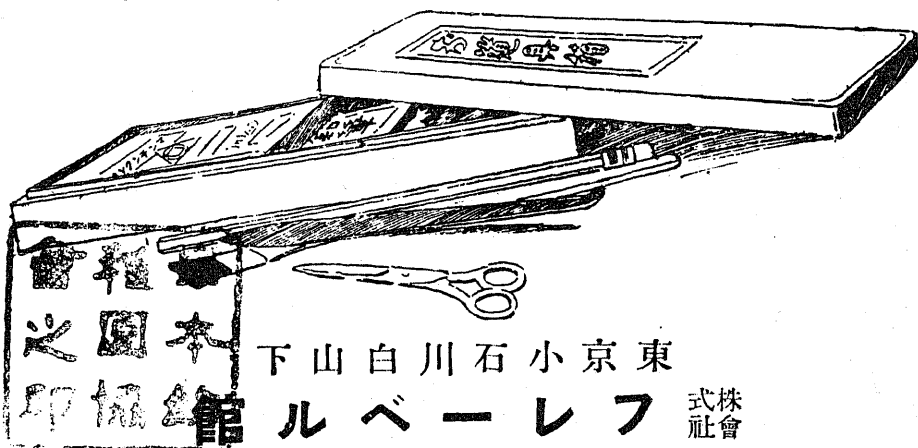
定價 二十錢

白と色の畫學紙を四十八頁綴り之に表紙を附したるもの「ヌリエ」に對して自由に描かしめます。

●手技帖

定價 十五錢

色ラシヤ紙十六切三十二頁リボン綴（スクラップブック）



東京女高師附屬幼稚園
ヌリエ

株式會社